

ニ由リ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ大蔵大臣ニ請求スヘシ

第二十四條 物品ヲ以テ歳入ヲ徵收スル方法ハ別ニ之ヲ定ム
第四章 歳出

第三十五條 歳出ニ係ル現金ノ仕拂ハ總テ大蔵大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ經費ハ各廳ノ請求ニ依リ大蔵大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第一項 在外各廳ノ經費

第二項 陸軍ノ行軍費

第三項 海軍ノ航海費

第四項 外國ニ於テ使用スル各廳ノ經費

第五項 燈臺巡回船ノ航海費

第六項 機密費

第七項 運輸通信ノ便少ナキ島嶼其他金庫ノ設置ナキ地方ニ在ル各廳ノ經費

第三十六條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカテサル場合ニ於テハ大蔵大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受

タル後十五日以内ニ之ヲ大蔵大臣ヘ送付シ其承認ヲ受クヘシ但其支出期節ノ豫定ニ難キモノ及第一節第三節歳出ハ此限ニアラス

第三十八條 前條歳出仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大蔵大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第三十九條 第三十七條但書中支出期節ノ豫定ニ難キモノハ其支出ヲ要スル毎ニ大蔵大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條 各廳ノ收支命令官ハ第三十七條第三十八條第三十九條ノ承認ヲ受タル後ニアラサレハ支出ヲ命令スルコトヲ得ス但毎會計年度ノ初メ一箇月分(毎年四月分)ハ各目ノ豫算金額十二分ノ一ニ超エサレハ承認ヲ受ケサルモ支出ヲ命令スルコトヲ得

第四十一條 各廳ニ於テ支出スル所ノ經費ハ第三十五條但書第三十六條ノ場合ヲ除キ總テ仕拂切符ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス

第四十二條 前條ノ經費ヲ仕拂フトキハ收支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對シ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユヘカテ

○第一類○行政法○歳入歳出納規則

第四十四條 仕拂切符ハ一日毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルコトヲ得ス

第四十五條 仕拂切符ヲ發付シタル會計主務官ハ其切符ヲ發スルト同時ニ該仕拂切符ニ指名シタル金庫へ案内書ヲ發スヘシ

第四十六條 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フモノトス但仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノハ第四十七條第四十八條ニ據リ之ヲ處分スヘシ

第四十七條 金庫ニ於テ仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符所有者ヲシテ其發行廳ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ

第四十八條 各廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十九條 金庫ハ仕拂ヲ請求セラレタル仕拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符合セサルコトアリト認ムルトキハ其事由ヲ該仕拂切符持參人ニ告ケ預リ證書ヲ發シテ該切符ヲ留置キ即時ニ其旨ヲ該切符ニ記名ノ會計主務官ニ通牒スヘシ

第五十條 前條ノ場合ニ於テ金庫ハ會計主務官ニテ仕拂切符又ハ案内

書ヲ訂正スルカ若クハ其切符ノ正當ナルヲ保證スルニアラサレハ之ヲ仕拂フコトヲ得ス

第五十一條 第三十五條ノ第一項第四項第七項ノ經費金遞送ヲ要スルトキハ各主管廳ノ收支命令官ヨリ請求書ヲ大藏大臣へ送付シテ送金ヲ請求スヘシ

第五十二條 前條ノ經費ハ一回ニ年額四分ノ一以内ヲ交付スルモノトス但臨時ノ費途ニシテ一時ニ支出ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第五十三條 豫算ノ裁定前ニ於テ第五十一條ノ經費發送ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ據リ送付ノ金額ヲ定ムルモノトス但臨時ノ費途ハ此限ニアラス

第五十四條 大藏大臣ハ第五十一條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ一箇月以内ニ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ發送セシムルモノトス

第五十五條 第三十五條ノ第二項第三項第五項第六項ノ經費金ヲ受取ノトスルトキハ各主管廳ノ收支命令官ハ請求書ヲ大藏大臣へ送付シ其交付ヲ請求スヘシ

第五十六條 大藏大臣ハ前條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ交付セシムルモノトス

○第一類 ○行政法 ○歳入歳出出納規則

第五十七條 各廳ノ收支命令官ハ第十條第十二條ノ支出ヲ爲サントスル
トキハ事由ヲ具シテ其仕拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十八條 各廳ノ本廳外ノ地ニ在ル小支部局若クハ出張官吏等へ經費
金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ發シ金庫へ送付
シ送金ヲ請求スヘシ

第五十九條 國庫常用部ヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノへ支出スル經費
ハ主管廳ノ請求ニ據リ大藏大臣ハ直ニ金庫ヨリ現金ヲ仕拂ハシムルモ
ソトス

第六十條 國債元利ノ仕拂ヲ爲ストキハ大藏大臣ハ其豫定金額ヲ北海
道廳ニ府縣廳へ達シテ其仕拂ヲ執行セシムルモノトス但銀行ヲシテ取
扱ハシムル國債元利ノ仕拂ハ其取扱銀行へ金額ヲ交付シテ之ヲ執行セ
シム

第六十一條 國庫常用部ヨリ國庫中其ノ部(準備部ノ類)へ支出スルモノ
ハ裁定ノ豫算ニ基キ大藏大臣ノ命令ニ據リ直ニ之ヲ移スモノトス

第六十二條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支
出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條 各廳ニ於テ既ニ仕拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ

第三十五條但書及第三十六條ニ據リ現金ヲ受取リ仕拂殘餘アルトキハ
即日之ヲ金庫へ納付シ廳中ニ留ムルコトヲ得ス但第三十五條第一項第
七項ノ場合ハ此限ニアラス

第六十四條 金庫ハ大藏大臣ノ命令ヲ受クルニアラサレハ一切仕拂ヲ執
行スルコトヲ得ス

第五章 報告

第六十五條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一週年度中
ニ係ル歳入ノ月額豫算表ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ
之ヲ大藏大臣へ報告スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラ
ス

第六十六條 郡區長ハ第十九條ニ據リ徵稅令書ヲ發シタルトキハ之ヲ北
海道廳長官若クハ府知事縣令へ報告スヘシ

第六十七條 北海道廳長官・府知事・縣令ハ前條郡區長ノ報告ニ據リ其徵
稅額表ヲ製シ納期ヲ豫定シタル租稅ハ徵稅令書發付後十五日以内ニ隨
時納期ヲ定ムルモノハ毎月取纏メ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣へ報
告スヘシ

第六十八條 金庫ハ各納人ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ其徵

○第一類○行政法○歳入歳出納規則

税令書若クハ納額告知書ヲ發シタル廳へ報告スヘシ但官廳ヨリ收入金ヲ領收シタルトキハ此限ニアラス

第六十九條 税關長ハ第三十二條ニ據リ關稅及稅關ノ諸收入ヲ送付スルトキハ同時ニ之ヲ大藏大臣へ報告スヘシ

第七十條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其徵收セシメタル歲入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ但關稅及稅關ノ諸收入ハ此限ニアラス

第七十一條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其支出セシメタル歲出ノ報告書ヲ調製シ翌月七日マテニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ

第七十二條 在外各廳ノ分任收支命令官ハ每會計年度初月ヨリ三箇月毎ニ歲出報告書ヲ主管廳長官へ送付スヘシ

第七十三條 本廳外ニ在ル支部局ノ分任收支命令官ハ第七十一條ノ期日マテニ毎月ノ歲出報告書ヲ主管廳長官へ送付スヘシ

第七十四條 前二條ニ據リ送付シタル歲出報告書ハ主管廳ノ收支命令官ヨリ其到達後三日以内ニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ

第七十五條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ現金ノ受拂ヲ大藏省主計局長ニ報告スヘシ

第七十六條 前條ノ報告期節ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 在外各廳ノ收入及經費機密費及現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費ノ報告ハ毎月分ヲ翌月十日マテニ發送ス

一 陸軍ノ行軍費ノ報告ハ行軍終ル後十五日以内ニ發送ス

一 海軍ノ航海費燈臺巡同船ノ航海費ノ報告ハ航海終ル後十五日以内ニ發送ス

第七十七條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歲入ノ徵收若クハ歲出ノ仕拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ但所在地ノ隔離スル郡區役所若クハ支部局ニ係ルモノハ年度後一箇月内ニ取纏メ之ヲ送付スヘシ

第七十八條 各廳ノ收支命令官ハ會計ノ整理期限(翌年度八月三十一日)内ニ於テ歲出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度十月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ

第七十九條 各廳ノ收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歲入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣へ送付スヘシ

第八十條 會計主務官ハ會計ノ整理期限ニテニ概算支出ノ精算未済ノ

○第一類○行政法○歲入歲出納規則

モノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度九月三十日マテニ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付スヘシ

第八十一條 郡區役所又ハ支部局ノ所在地遠隔ニシテ第六十七條第七十條及第七十七條但書ノ報告期節ニ其報告ヲ取纏メ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ大藏大臣ニ開申シ追表ヲ製シテ別ニ之ヲ報告スヘシ

第六章 雜則

第八十二條 此規則ニ掲グル仕譯書請求書月額豫算表計算書報告書徵稅令書納額告知書仕拂切符等ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十三條 此規則ニ關スル事務取扱ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十四條 現行法規中此規則ニ抵觸スル條項ハ廢止ス

▲明治十九年五月大藏省告示第四拾號

歳入歳出納規則第六條ノ旨意ニ據リ國庫金取扱所現金支拂所ノ金庫ハ當分ノ内開庫時間ヲ定ムルコト左ノ如シ尤東京金庫局ノ金庫大阪金庫局出張所ノ金庫開扉時間ハ臨時別ニ之ヲ定ム

但當該廳會計主務官ヨリ特ニ急施ノ通報アルモノハ左ノ限ニアラス

四月一日ヨリ 午前九時ヨリ 九月十一日ヨリ 午前九時ヨリ
九月十日迄 午後五時迄 三月三十一日迄 午後三時迄

右告示ス

▲明治十九年五月大藏省告示第四拾八號

東京金庫局ノ金庫ハ本月二十五日ヨリ大阪金庫局出張所ノ金庫ハ本月二十八日ヨリ午前八時開扉午後二時閉鎖ス

但當該廳會計主務官ヨリ特ニ急施ノ通報アルモノハ本文ノ限ニアラス

右告示ス

○第二款 歳入取扱順序

▲明治十九年三月大藏省令第四號

閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳入取扱順序別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊)

歳入取扱順序

第一章 主管廳及支部局

内國稅

第一條 北海道廳長官府知事縣令ハ毎年達セラル豫算額ニ據リ前々年度以前三ヶ年間該當月ニ收入シタル平均額ト其豫算額トヲ標準トシ

○第一類○行政法○歳入取扱順序

一週年度中ニ係ル内國稅ノ月額豫算表ヲ第十七號甲書式ニ據リ調製シ
規則第六十五條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二條 北海道廳長官府知事縣令ハ規則第十九條ニヨリ徵收命令ヲ郡區
長ヘ下スニハ租稅ノ種類ニ依リ其廳ノ便宜ニ從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ
之ヲ發シ或ハ隨時ニ之ヲ發ス

第三條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ規則第六十六條ノ報告ヲ
得タルトキハ之ヲ取纏メ第十八號書式ニ據リ徵稅額表ヲ製シ規則第六
十七條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第四十八條徵收濟報
告書ヲ得タルトキハ毎月分ヲ取纏メ第二十號甲書式ノ歲入報告書ヲ製シ
規則第七十條ニヨリ大藏省ヘ送付ス

第五條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第五十條ノ既納歲入
下戻ヲ請求スルトキハ第六號書式ニヨリ計算書ヲ製シテ規則第三十三
條ニヨリ其下戻ヲ大藏省ニ請求ス

第六條 北海道廳長官府知事縣令ハ大藏省ヨリ既納金拂戻證ノ交付ヲ受
ケルトキハ之ヲ郡區長ニ交付シ其旨ヲ大藏省ヘ報告ス

第七條 北海道廳長官府知事縣令ハ會計年度内ニ於テ内國稅ノ徵收ヲ完

了セサルモノアルトキハ第二十三號甲書式ニヨリ會計年度内徵收未濟
報告書ヲ製シ規則第七十七條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第八條 北海道廳長官府知事縣令ハ翌年度十一月三十日迄ニ内國稅ノ徵
收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號甲書式ニ據リ出納閉鎖前不
納報告書ヲ製シ規則第七十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第九條 規則第八十一條ニヨリ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第
十八號書式第二十號甲書式第二十三號甲書式ニ準ス

第二部 歲入 稅關ノ諸收
第十條 主管廳ノ收支命令官ハ毎年達セラレタル豫算額ニ基キ第十七號
乙書式ニヨリ各所管内ノ歲入月額豫算表ヲ調製シ規則第六十五條ニヨ
リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第十一條 收支命令官又ハ分任收支命令官ハ規則第二十二條ニ據リ會計
主務官又ハ其代理官ニ命令ヲ下スニハ歲入ノ性質ニ依リ其廳ノ便宜ニ
從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ之ヲ發シ或ハ隨時ニ之ヲ發シテ其徵收ヲ取扱
ハシム

第十二條 會計主務官又ハ其代理官ニ於テ規則第二十三條第二十五條ニ據
リ納額告知書ヲ發スルトキハ總務納額臺帳ヨリ第四號書式ノ納額告知

○第一類 ○行政法 ○歲入取扱順序

書ニ納人以姓名金員納期告知書番號所屬年度科目所屬曆年納期
 其納期共納付先ヲ記載シ又其告知書ニ接續シタル上納書ノ正副共右同
 一ノ記入ヲナシ納額告知書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ
 之ニ官印ヲ捺シ第四號書式ニ印ノ處へ臺帳ト割印シテ之ヲ納人へ交付
 ス

第十三條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシ
 ムルトキハ納額告知書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記
 名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)納額告知書ト共ニ之ヲ現
 金ニ添テ金庫へ持參セシム

第十四條 規則第十六條但書及第十七條ニ據リ現金ヲ各廳へ收入スルキ
 ハ其取扱主任官ハ規則第二十七條ニヨリ第五號書式ノ納付書ヲ添へ現
 金ヲ金庫へ納付ス

第十五條 納人數多アリテ其組合代理ヲ撰ミ之ヲ委託シテ納金ヲナサン
 トスルモノアルトキハ代理納人ニ對シテ納額ヲ集計シタル納額告知書
 ヲ發ス

第十六條 納人ノ隔地ニ散在スルカ爲メ他廳ニ主管廳ヲ異ニ徵收ヲ委託ス
 ル場合ニ於テハ收支命令官ヨリ受託廳ノ收支命令官ニ徵收額調書ヲ送

○第一類○行政法○歲入取扱順序

リテ其徵收ヲ託ス

第十七條 前條ノ委託ヲ受ケタル收支命令官ハ分任收支命令官ノ地位ニ
 アルト均シク徵收ヲ取扱フモノナレハ處務ノ便宜上必要トスレハ更ニ
 部下ノ官吏ニ收支ノ命令ヲ分任ス

第十八條 納人ノ隔地ニ散在スルカ爲メ部下ノ廳ヲシテ徵收ヲ監督セシ
 ムル場合ニ於テハ收支命令官ハ會計主務官ヲシテ順序第十二條ニヨリ
 調製シタル納額告知書ヲ其廳へ送付セシメ其廳ニ於テ各納人へ配付セ
 シム

第十九條 前條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ヲ配付ヲ命セラレタル部下
 ノ廳ハ主管廳ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監查簿ヲ備へ置キ之ニ登記
 シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ廳印ヲ捺シ上納正副書
 用紙ノ裏面ニハ廳印ヲ捺シ之ヲ納人へ交付ス

第二十條 納額告知書ヲ配付ヲ命セラレタル廳ニ於テハ金庫ヨリ順序第
 八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受クルキハ之ヲ徵收監查簿ニ照
 合シ納濟ノ記入ヲナス

第二十一條 納額告知書ヲ配付シタル廳ハ金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ
 取纏メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳へ送付ス

第二十二條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレ又ハ上納副書ヲ取纏メタル廳ヨリ前條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ納額臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲナス

第二十三條 會計主務官又ハ其代理官ハ毎月納濟ノ金額ヲ取調ヘ歳入徵收濟調書ヲ製シ之ヲ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ報告ス

第二十四條 收支命令官ハ前條ノ報告ニ據リ第二十號乙書式ノ歳入報告書ヲ製シテ規則第七十條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十五條 分任收支命令官ハ順序第二十三條ノ報告ニ據リ第二十號乙書式ニ準シ歳入報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第二十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後之ニ記名捺印シテ大藏省ヘ送付ス

第二十七條 收支命令官ハ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ第六號書式ニ準シ計算書ヲ製シテ規則第三十三條ニ據リ其下戻ヲ大藏省ニ請求ス

第二十八條 分任收支命令官ハ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ主管廳ノ收支命令官ニ開申ス

第二十九條 收支命令官ハ大藏省ヨリ既納金拂戻證ノ交付ヲ受クルトキ

ハ會計主務官又ハ其代理官ヲシテ之ヲ受取人ニ交付セシメ其旨ヲ大藏省ニ報告ス

第三十條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ上納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受タルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ具申シ其命令ニヨリ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第三十一條 在外各廳ニ於テ現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ歳入歳出ノ現金ヲ合セテ取扱タルトキハ第二十二號甲書式ニ據リ歳入ノ取扱タルトキハ第二十二號乙書式ニ據リ規則第七十五條第七十六條ニ據リ報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十二條 前條ノ出納主任官ハ其收入シタル現金ヲ監守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス

第三十三條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號乙書式ニ據リ會計年度内徵收未濟報告書ヲ製シ規則第七十七條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十四條 收支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第三十三號乙書式ニ據リ出納閉鎖前不納報告書

○第一類○行政法○歳入取扱順序

ヲ製シ規則第七十九條ニヨリ之ヲ大藏省へ送付ス

第三十五條 規則第八十一條ニ據リ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第二十號乙書式第二十三號乙書式ニ準ス

第二章 郡區役所

第三十六條 郡區長ハ規則第十九條第二十三條ニ據リ戶長若クハ各納稅者ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルトキハ總テ徵稅臺帳ニ據リ徵稅令書ニ納人(納稅者若クハ戶長)ノ姓名、金員納期、令書番號、所屬年度、科目、所屬曆年(納期ノ數回アルモノハ其納期共)納付先ヲ記載シ又其令書ニ接續スル上納書ノ正副共同一ノ記入ヲナシ(金員ヲ除ク)徵稅令書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第一號書式イ印ノ如ク臺帳ト割印シテ之ヲ納人へ交付ス規則第十七條ニ據リ現金ヲ徵收スルトキハ上納副書用紙ヲ交付セス

第三十七條 前條中各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第二號書式ニ據リ戶長ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第一號書式ニ據ル

第三十八條 各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ郡區役所ノ便宜ニ依リ戶長ニ交付シテ之ヲ配付セシメ又ハ直ニ之ヲ各納稅者ニ交付ス

第三十九條 戶長ニ徵稅令書ヲ交付シテ配付セシムル場合ニ於テハ戶長

ナシテ税金ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付セシメ又ハ各納稅者ヲシテ直ニ税金ヲ金庫ニ納付セシムルハ徵稅上ノ便宜ニ依リ郡區役所ニ於テ之ヲ命令ス

第四十條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシムルニハ徵稅令書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添テ金庫へ持參セシム

第四十一條 郡區長ハ徵稅令書ヲ發シタルトキハ規則第六十六條ニ據リ其報告書ヲ製シテ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳へ送付ス

第四十二條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル税金ヲ規則第十六條但書ニ據リ郡區役所ニ收納シタルトキハ別ニ其領收證書ヲ製シ處分濟徵收ノ達書ト共ニ之ヲ納稅者ニ交付ス但戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シタルモノニ係ルトキハ本文ノ領收證書及ヒ達書ヲ戶長ニ交付シテ之ヲ納稅者ニ傳

第四十三條 規則第十七條ニヨリ税金ヲ郡區役所ニ納付セシメタルトキハ郡區役所ハ徵稅令書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ役所印ヲ捺シ其傍ニ取

○第一類○行政法○歲入取扱順序

扱主任者ノ印ヲ捺シ上納書ヲ接續シ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷シ該金書ハ之ヲ納人ヘ還付ス

第四十四條 戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シ税金ヲ郡區役所ニ徵收スル場合ニ於テ税金ノ内納不納等ノキハ戶長ニ對スル處務ノ順序ハ總テ金庫ノ取扱ニ進ス

第四十五條 規則第十六條但書及第十七條ニ據リ税金ヲ郡區役所ニ收入スルトキハ郡區長ハ税金取扱主任官ヲシテ規則第二十七條ニ據リ第五號書式ノ納付書ヲ添ヘ現金ヲ金庫ヘ納付セシム

第四十六條 郡區長ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ徵稅臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲナス

第四十七條 郡區役所ニ於テ税金ヲ徵收スル場合ニ於テハ現金ヲ收納シタル際即時ニ徵稅臺帳ニ領收濟ノ記入ヲナス

第四十八條 郡區長ハ毎月徵收濟ノ金額ヲ一ヶ月毎ニ取調徵收濟報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第四十九條 郡區長ハ徵稅臺帳及金庫ヨリ送付シタル不納報告ニ據リ會前年度内徵收未濟報告書并ニ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第五十條 郡區長ハ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ之レカ計算書ヲ製シテ其下戻ヲ北海道廳長官府知事縣令ニ請求ス

第五十一條 郡區長ハ主管廳ヨリ既納金拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收證ヲ主管廳ヘ發送シ其拂戻證ハ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徵ス

第五十二條 郡區長ハ税金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルトキハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其理由ヲ裏面ニ記載シテ之ヲ納人ニ交付ス

第五十三條 郡區長ハ金庫ヨリ上納副書分納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受ケタルトキハ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第五十四條 郡區長ハ順序第十八條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監查簿ヲ備置キ之ニ登記シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ郡區役所ノ印ヲ捺シ上納正副書用紙ノ裏面ニハ郡區役所ノ印ノミヲ捺シテ之ヲ納人ヘ交付ス

第五十五條 郡區長ハ前條ノ場合ニ於テ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受ケルトキハ之ヲ徵收監查簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲナス

第五十六條 郡區長ハ順序第五十四條ノ場合ニ於テ納金ヲ領收シタル金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ取纏メ主管廳ニ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ニ送付ス

第三章 戶長役場

第五十七條 戶長ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ以テ町村ノ税金取纏メヲ命セラレタルルキハ規則第二十條ニ據リ概子附記ノ雛形ニ準シ徵稅傳令書ヲ製シ納稅者ニ配付シ納稅者ヲシテ現金ニ徵稅傳令書ヲ添ヘ戶長役場ニ納付セシム

第五十八條 戶長ハ各納稅者ヨリ税金ヲ領收スルルキハ徵稅傳令書ニ接續シタル税金領收證用紙ニ金員及領收ノ年月日ヲ記入シ姓名ノ下ニ捺印シ傳令書ト領收書ト接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ傳令書ヲ役場ニ留メ領收書ヲ納稅者ニ交付ス

第五十九條 納期末日前ニ於テ税金ノ内納ヲナサンコトヲ請フモノアルルキハ徵稅傳令書ニ内納ノ金額并ニ其領收年月日ヲ記入シ捺印シテ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續ヲナス但戶長ニ於テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收證書ヲ發スルヲ便トスルルキハ別ニ假領收證ヲ交付シ完納ノ際前條ノ手續ヲナシテ假領收證ト交換ス

第六十條 戶長ハ規則第二十四條ニ據リ取纏メタル税金ヲ納付スルトキハ郡區長ヨリ受タル徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ニ第一號書式第一例ノ如ク金員年月日ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス

第六十一條 戶長ハ其取纏メタル税金未タ徵稅令書ノ金額ニ滿サルカ爲メ内納ヲナサントスルルキハ第三號書式ノ分納書ニ式ノ如ク所屬年度ノ科目ノ所屬曆年ノ納期ノ數回ナルトモ其受ケタル徵稅令書ニ記載シタル如ク記入シ之ニ内納ノ金額及納付年月日ヲ記入シ記名捺印シテ現金并ニ徵稅令書ト共ニ之ヲ金庫ヘ納付ス

第六十二條 前條分納ノ場合ニハ徵稅令書ニ記載シタル納金ノ全額ニ滿ルマテハ前條ノ手續ニヨリ最後完納ノ時ニ至レハ分納書ヲ用ヒテ第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書ニ接續シタル上納書ニ其納金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス
第六十三條 戶長ニ於テ税金ヲ分納シタル後納期末日ニ至リ徵稅令書ノ金額ヲ完納スル能ハサルルキハ徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ノ上納文及朱書ヲ以テ第一號書式第三例ノ如ク改記シ不納報告書トナシ不納金額及年月日ヲ記入シ記名捺印シテ之ヲ徵稅令書ニ接續シタル上納書ニ添ヘ金庫ニ送付ス

○第一類○行政法○歳入取扱順序

第六十四條 前條ノ不納報告ヲナシタル後不納處分中戸長ニ於テ税金ノ上納ヲ取扱フコアルトキハ順序第六十一條ノ如ク第三號書式ノ分納書ヲ以テ幾ニ金庫ヨリ返付セラレタル徵稅令書ト共ニ現金ヲ金庫ニ納付ス

第六十五條 戸長ハ郡區長ヨリ各納稅者ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ交付セラレタルトキハ直ニ之ヲ各納稅者ニ配付ス

第六十六條 戸長ハ前條ノ場合ニ於テ順序第三十九條ニ據リ郡區長ヨリ税金ノ取纏メヲ命セラレタルトキハ納稅者ヨリ税金ヲ領收シ之ニ對シテ假領收證書ヲ發付シ其持參シタル徵稅令書并ニ之ニ接續シタル上納書ヲ預ル

第六十七條 戸長ハ前條領收シタル税金ヲ其預リタル徵稅令書上納書ト共ニ金庫ニ納付ス

第六十八條 戸長ハ金庫ヨリ領收シタル徵稅令書ノ還付ヲ受ルトキハ之ヲ各記名ノ納稅者ニ交付シ幾キニ發付シタル假領收證ト交換ス

第六十九條 成規又ハ納稅者ノ望ニ據リ徵稅令書發付ニ先ク税金ヲ納ムル場合ニ於テハ戸長ハ其預リ證書ヲ納稅者ニ交付シ郡區長ニ報告シテ徵稅令書ノ發付ヲ請求ス

第七十條 前條ノ場合ニ於テハ戸長ハ徵稅令書ヲ受ケタルトキ納稅者

ナシテ上納書用紙ニ年月日ヲ記入シ記名捺印セシメ幾ニ預リタル現金ト共ニ金庫ニ納付シ徵稅令書ニ領收ノ證ヲ受ケ之ヲ納稅者ニ交付シテ預リ證書ト交換ス但戸長ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ受ルトキハ其傳令書ヲ發セス戸長ヨリ領收證書ヲ發シテ預リ證書ト交換ス

第七十一條 戸長ニ於テ既納ノ税金下戻ヲ要スルト見認ルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ郡區長ニ請求ス

第七十二條 戸長ハ郡區長ヨリ税金ノ拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收證ヲ郡區役所へ發送シ金庫ニ於テ現金ヲ受取り之ヲ配付ス

第四章 金庫

第七十三條 納人ヨリ現金ヲ上納書ニ添へ徵稅令書若クハ納額告知書ト共ニ納付スルトキハ金庫ハ其令書若クハ告知書ニ規則第二十九條ニ據リ書式ノ如ク領收ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ割印ノ後之ヲ切斷シ其令書若クハ告知書ハ之ヲ納人へ還付ス

第七十四條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ正書ニ據リテ帳簿

ニ記入シ副書ハ規則第六十八條ニ據リ即日前條ノ令書若クハ告知書ヲ發シタル廳へ送付ス

第七十五條 戶長ヨリ税金ノ内納ヲナス爲メニ分納書ヲ添テ現金ヲ納付スルトキハ金庫ハ徵稅令書ノ裏面ニ第一號書式第二例ノ如ク内納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ戶長ニ還付ス

第七十六條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後ハ分納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正副接續ノ處ニ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所へ送付シ正書ニヨリテ帳簿ニ記入ス

第七十七條 戶長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未完納ニ至ルトキハ金庫ハ第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ最後領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戶長ニ還附ス

第七十八條 戶長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未徵稅令書ノ金額ヲ完納シ難キトキ其旨ヲ報告シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行

ニ朱書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ金庫ノ印ヲ捺シ不納報告書ト接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戶長ニ還付ス

第七十九條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後不納報告書正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所へ送付ス

第八十條 不納處分中上納ノ税金ヲ戶長ヨリ納付シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ末ニアル雛形ニ據リ領收證箋ヲ製シ領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ徵稅令書ノ下端ニ書式ノ如ク貼付シ契印ヲ捺シテ之ヲ戶長ニ還付ス幾回ニモ右ノ如キ收納アルトキハ都テ領收證箋ヲ徵稅令書ノ下端ニ并貼シ餘地ナキニ至レハ徵稅令書裏面ノ餘白ニ貼付ス

第八十一條 前條ノ手續ヲ終ル後分納書取扱ノ手續キハ第七十六條ニ同シ

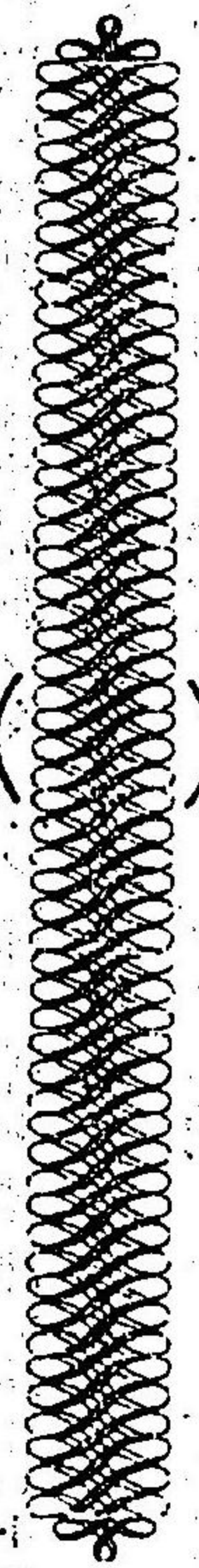
第八十二條 金庫ハ現金取扱ノ主任官ヨリ現金ノ納付ヲ受ルトキ規則第二十九條但書ニ據リ第五號書式ノ如ク納付書ノ正書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ副書ニハ納濟ノ年月日ヲ記入シ共ニ金庫ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シテ正書ハ之ヲ納付人へ還付シ副書ニハ金庫

○第一類○行政法○歳入取扱順序

印ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ之ニ據リテ帳簿ニ記入ス
第八十二條 順序第十九條若シハ第五十四條ノ納額告知書ト共ニ現金ヲ
領收シタル場合ニ於テハ金庫ハ順序第七十三條第七十四條ノ手續キニ
據リテ之ヲ取扱ヒ其上納副書ハ該告知書ヲ配付シタル廳ヘ送付ス

徵稅傳令書雛形 (寸法用紙適宜)

第何號	何ノ誰納
一金何圓何錢	
明治何年第何期分地租	
右明治何年何月何日限リ上納	
年月日	戶長何ノ誰印



第何號	
一金何圓何錢	地租
右正ニ領收候也	
年月日	戶長何ノ誰印
	何ノ誰殿

○第三款 歳出取扱順序

▲明治十九年三月大藏省令第五號
閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳出取扱順序別冊ノ通之
ヲ定ム

(別冊)

歳出取扱順序

第二章 各廳普通ノ經費

○第一類○行政法○歳出取扱順序

- 第一條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第三十七條ニ據リ毎年達セラレタル豫算額ニ基キ經費ノ支出月額ヲ定メ仕拂場所ヲ區別シ第八號書式ニ據リ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第二條 大藏大臣ノ承認ヲ得タル支出仕譯書中ニ於テ規則第三十八條ニ據リ月額又ハ仕拂場所ヲ改訂セントスルトキハ第九號書式ニヨリ訂正仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三條 支出期節ノ豫定シ難キモノニシテ其期節并ニ仕拂場所ノ定マルトキハ第十號書式ニ據リ追仕譯書ヲ製シテ規則第三十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第四條 各廳ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ會計主務官又ハ其代理官ハ支出スヘキ金額事由ヲ具シテ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フ
- 第五條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ裁可ヲ得タルトキハ第十一號書式ニヨリ仕拂切符元帳ニ金員事由ヲ記載シ仕拂切符ニ番號金員要用ハ貨幣ノ仕拂場所受取人姓名切符發行ノ年月日等ヲ記入シ記名捺印シ案内書ニハ番號所屬年度科目金員要用ナレハ貨幣ノ種類共ニ受取人姓名切符發行ノ年月日ヲ記入シ記名捺印シ元帳仕拂切符案内書ト接續ノ所ヘ割印シ之

- ヲ切斷シテ案内書ハ金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付シテ其領收證ヲ徴ス
- 第六條 會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地方ナレハ會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ手續ニヨリ其地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ製シ同時ニ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ之ヲ受取人ヘ送付シテ其領收證ヲ徴ス
- 第七條 規則第五十八條ニ據リ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ニ經費金ヲ送付セントスルトキ仕譯書ヲ以テ豫メ承認ヲ得難キ場合ニ於テハ會計主務官又ハ其代理官ハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行シ切符ノ裏面ニ受取人ノ住所姓名并ニ現金ノ遞送ヲ請求スル旨ヲ記載シテ該金庫ヘ送付ス
- 第八條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ請求ヲナシ金庫ヨリ送金ノ手形ヲ交付セラレタルトキハ之ヲ以テ受取人ヘ送付シ其領收證ヲ徴ス
- 第九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第六條第七條第八條ノ手續キニ據リ仕拂切符ヲ發行スルトキハ仕拂切符元帳ニヨリ帳簿ニ登記ス
- 第十條 金庫ヨリ仕拂切符ノ書式等成規ノ如クナラサルカ又ハ案内書ト

○第一類○行政法○歳出取扱順序

符合セサルコアルカチ通知スルルハ該切符ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官ハ其理由ヲ審査シ該切符若シ證書ノ効力ヲ失ナフニ至ラサル場合ナルカ又ハ案内書ノ誤謬ナレハ其切符ノ正當ナル保證書ヲ金庫ヘ送付シテ仕拂ヲ請求シ該切符若シ證書ノ効力ヲ有シ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ金庫ニ報シテ仕拂切符ヲ持參人ヘ返付セシメテ請求シ其偽造變造等ニ係ルトキハ法ニ據リテ取扱ハシム

第十一條 前條金庫ヨリ受取人ニ仕拂切符ヲ返付シタル場合ニ於テ其所
有者ヨリ該仕拂切符ノ書換ヲ請求スルトキハ會計主務官又ハ其代理官
ハ書換ヲナスヘキ正當ノ理由アリト見認ルトキハ收支命令官又ハ分任
收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十二條 仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ノ書換ヲ請求セラルトキハ
會計主務官又ハ其代理官ハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請
ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十三條 會計ノ整理期限内ニ於テ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ仕拂切
符簿(大藏省ヨリ交付シタル仕拂切符元帳仕拂切符及案内書ノ用紙)ニ
於テ通常仕拂切符發行ノ手續キニヨリ仕拂切符并ニ案内書ヲ製シ元帳
ニハ朱書ヲ以テ金額事由等ヲ記入シ割印シテ之ヲ切斷ス但金額入更正

ヲ要スル場合ニ於テハ本文ノ手續ニ據ラヌ

第十四條 會計ノ整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ過
年度支出トシテ更ニ通常ノ手續ニヨリ仕拂切符ヲ發行ス

第十五條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第十二條第十三條ニヨリ仕
拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊仕拂切符ニ消印ヲナシ收支命令官
又ハ分任收支命令官ニ之ヲ證明ス

第十六條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限前ニ於テ過渡金ノ
追徴ヲナストキハ第十六號書式ニヨリ返納告知書ニ番號金員事由納期
日返納場所返納人ノ姓名年月日ヲ記入シ記名捺印シ返納元帳ニハ番號
金員事由納期日返納人ノ姓名告知書發付ノ月日ヲ記入シ元帳ト告知書
ト接續ノ處ヘ割印ヲナシ切斷シテ之ヲ返納人ヘ交付シ返納人ヲシテ返
納告知書ニ現金ヲ添テ金庫ヘ納付セシム

第十七條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限後ニ於テ過渡金ノ
追徴ヲナストキハ歳入ヲ徵收スルト同一ノ手續ニヨリ納額告知書ヲ發
シテ之レヲ返納人ヘ交付シ返納人ヲシテ通常ノ歳入ト同一ノ手續ニヨ
リ現金ヲ金庫ヘ納付セシム

第十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ返納ノ通知ヲ得タルトキ

○第一類○行政法○歳出取扱順序

ハ返納元帳ニ返納濟ノ記入ヲナス

第十九條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十一條ニヨリ送金ヲ請求セシトスルトキハ第十二號書式ニ據リ送金請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十條 前條ノ請求ニヨリ經費金ノ送付ヲ受タル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十一條 前條ノ出納主任官ハ該經費金ノ支出ヲ要スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フテ之ヲ支出ス

第二十二條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十五條ニヨリ經費金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニヨリ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十三條 前條ノ請求ニ因リ經費金ノ交付ヲ受ケタル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ金庫ヘ送付ス

第二十四條 前條ノ出納主任官ハ其交付セラレタル現金ノ支出ヲ要スルトキハ該經費金ノ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フテ之ヲ支出ス

第二十五條 規則第三十六條ニ據リ現金ヲ受取ントスルトキハ主管廳ノ

收支命令官ハ第十四號書式ニ準シ請求書ヲ製シ事由ヲ具シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十六條 前條ニ因リ現金ノ交付ヲ受クルトキハ出納主任官取扱ノ手續キハ總テ第二十三條第二十四條ニ準ス

第二十七條 規則第五十七條ニ據リ支拂ヲ請求セントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十五號書式ニ據リ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十八條 前條請求ノ承認ヲ得タルトキハ收支命令官ハ通常支出ノ手續キニ據リ會計主務官ヲシテ仕拂ヲ執行セシム

第二十九條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ歳入歳出ノ現金ヲ合セテ取扱ヒタルトキハ第二十二號甲書式ニ據リ歳出ノ取扱タルトキハ第二十二號丙書式ニ據リ報告書ヲ製シ規則第七十五條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十條 規則第三十五條第一項第七項ニ屬スル經費金ヲ取扱ヒタル出納主任官ハ毎年度支出ノ後殘金アルトキハ之ヲ監守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス

第三十一條 收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十

一條ニ據リ第二十二號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
第三十二條 分任收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十二條若クハ第七十三條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ主官廳ヘ送付ス

第三十三條 主官廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後之レニ記名捺印シ規則第七十四條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十四條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ其仕拂フヘキ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十七條ニ據リ第二十四號書式ノ會計年度内歳出未済報告書ヲ製シ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十五條 收支命令官ハ會計ノ整理期限内ニ於テ其仕拂フヘキ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十八條ニ據リ第二十四號書式ノ會計整理期限内歳出未済報告書ヲ製シ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十六條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算ヲ以テ支出シタル經費ノ精算未済ノモノアルトキハ規則第八十條ニ據リ第二十五號書式ノ精算未済報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付ス

第三十七條 收支命令官ハ大藏省ヘ歳出ノ報告ヲ送付シタル後金額ヲ改メテ再度仕拂切符ヲ發行セシメタルトキ又ハ會計ノ整理期限ヲ過キ仕

拂切符ヲ再發シ之ヲ交換セシメタルトキハ既ニ發送シタル歳出報告中其事項ノ取消書ヲ毎月ノ繰出報告書ト共ニ大藏省ヘ送付ス

第三十八條 收支命令官ハ出納閉鎖ノ期ヲ過キテ仕拂切符ノ仕拂請求ナキ報告ヲ金庫ヨリ受タルトキハ十五日以内ニ前年度ノ歳出報告中其事項ノ取消書ヲ大藏省ヘ送付ス

第二章 各省所管ノ府縣費

第三十九條 府知事縣令ハ經費所管廳ノ長官ヨリ費額ノ令達ヲ受ルトキハ順序第一條ノ手續ニ據リ仕譯書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス
第四十條 規則第三十八條第三十九條ノ場合ニ於テハ順序第二條又ハ第三條ノ手續キニ據リ訂正仕譯書又ハ追仕譯書ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十一條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ仕譯書ヲ受ルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十二條 府知事縣令ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十三條 府知事縣令ハ分任收支命令官ヨリ順序第三十二條ノ歳出報

○第一類○行政法○歳出取扱順序

告ヲ受クルトキハ査閲ノ後之ニ記名捺印シテ經費所管ノ廳ヘ送付ス
 第四十四條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
 第四十五條 順序第三十四條第三十五條ニ屬スル報告書及順序第三十七條第三十八條ノ取消書ハ府知事縣令ヨリ其經費所管廳ヘ送付ス
 第四十六條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ報告書又ハ取消書ヲ受タルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
 第四十七條 府縣ノ會計主務官ハ順序第三十六條ノ手續キニヨリ精算未濟報告書ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付スルトキハ同時ニ副書一通ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス
 第四十八條 府知事縣令ハ規則第三十六條ニヨリ現金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニ準シ事由ヲ具シテ之ヲ經費所管ノ廳ニ請求ス
 第四十九條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ査閲シ至當ノ請求ニシテ規則第三十六條ニ適合スルモノト見認ルトキハ請求書末ニ其旨ヲ副書シテ大藏省ニ請求ス
 第五十條 府知事縣令ハ神社常務ノ經費ノ豫算定額ヲ十二分シ毎月順序第五條ノ手續キニヨリ會計主務官ヲシテ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ受取

人ニ交付セシム

第五十一條 前條ニヨリ仕拂ヲ執行シ難キモノアルトキハ府知事縣令ハ事由ヲ具シ該經費所管ノ廳ニ特別ノ處分ヲ請求ス
 第五十二條 神社費所管ノ廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ其當否ヲ審査シ請求ノ至當ナルモノハ更ニ之ヲ大藏省ニ請求ス
 第五十三條 本章各條ニ歴舉シタル手續キノ外ハ總テ第四條ヨリ第二十一條マテ第二十六條ヨリ第三十條マテノ手續キニヨル

第三章 國債

第五十四條 國債元金償還ノ當籤ヲ大藏省ヨリ公布スルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ第八號書式ニ準シ其管内ニ於テ仕拂フヘキ金額ヲ定メ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
 第五十五條 國債利子及賦金ノ定期仕拂ニ係ルモノハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ豫定シテ大藏省ヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ達ス
 第五十六條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ第八號書式ニ準シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
 第五十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ大藏省ヨリ順序第五十四條第五十六條ノ仕譯書ニ據リ仕拂ノ令達ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官

○第一類○行政法○歳出取扱順序

ニ命ス但支廳ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨
 ナ支廳ノ分任收支命令官ニ達ス
 第五十八條 支廳ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條
 ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス
 第五十九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第五十七條若クハ第五十八
 條ノ命令ヲ受クルトキハ順序第五條ノ手續キニヨリ仕拂ヲ執行ス
 第六十條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ
 其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキ
 ハ該地方ノ郡區役所ニ仕拂切符ヲ送付シテ之ヲ受取人ニ交付セシメ同
 時ニ案内書ヲ該金庫ヘ送付ス
 第六十一條 國債元金ヲ償還スルトキハ公債證書ニ對シテ仕拂切符ヲ交
 付シ利子ノ仕拂ヲナストキハ利札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付シ賦金ノ支
 拂ヲナストキハ賦札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付ス但記名公債證書及利札
 賦札ノ亡失等ニ罹リ定期ヲ過キテ元金利子若クハ賦金ヲ仕拂フトキハ
 其事由金額種類記號番號等ヲ詳記シタル領收證書ヲ徵シテ仕拂切符ヲ
 交付ス
 第六十二條 國債元金利子若クハ賦金ノ仕拂額事故解融又ハ調査期限後

轉入ノ爲メ大藏省ヨリ令達シタル金額ニ超過スルトキ及事故解融ノ爲
 メ會計ノ整理期限後ニ於テ元金利子若クハ賦金ノ仕拂ヲ請求スルモノ
 アルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ其事由ヲ具シ支出ノ請求書從來
 式ニ據ルヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
 第六十三條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其仕拂ヲ達ス
 第六十四條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第五十
 七條ヨリ第六十一條マテノ手續ニ據リ仕拂ヲ執行セシム
 第六十五條 起業公債金札引換無記名公債中仙道鐵道公債外國公債ノ元
 利金ハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ定メテ大藏省ヨリ各其取扱銀行
 へ現金ヲ交付シ其仕拂ヲ執行セシム
 第六十六條 本章各條ニ歷舉スルモノ、外ハ總テ第十條ヨリ第十六條マ
 テ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續キニ
 據ル
 第四章 年金恩給諸祿
 第六十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ年金恩給一時賜金ヲ除ク若クハ諸祿ノ
 交付期節毎ニ其支出スヘキ金額及仕拂場所ヲ取調ヘ第八號書式ニ準シ
 其仕譯書ヲ製シ内譯明細書ヲ添付シ交付期月ノ三十日前ニ之ヲ大藏省

○第一類○行政法○歳出取扱順序

へ發送ス

- 第六十八條 大藏省ハ前條仕譯書ニヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ年金恩給若クハ諸祿ヲ交付スヘキ令達ヲナス
- 第六十九條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支廳ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支廳ノ分任收支命令官ニ達ス
- 第七十條 支廳ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス
- 第七十一條 會計主務官又ハ其代理官ハ第六十九條若クハ第七十條ノ命令ヲ受クルトキハ第五條ノ手續ニヨリ仕拂ヲ執行ス
- 第七十二條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキハ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ヲ該地方ノ郡區役所ニ送付シテ之ヲ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徴セシム
- 第七十三條 仕拂切符ヲ受取人ニ交付スルトキハ年金ノ仕拂切符ナレハ年金證ヲ檢閲シ恩給ノ仕拂切符ナレハ恩給證書及生存證書ヲ檢閱ス
- 第七十四條 恩給中一時賜金ハ其支出ヲ要スル毎ニ主管廳ノ收支命令官

- ヨリ第十五號書式ニ準シテ請求書ヲ製シ仕拂ノ場所ヲ記入シ本人ノ履歷書ヲ添付シ其支出ヲ大藏省ニ請求ス
- 第七十五條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其正當ナルトキハ即時承諾ノ旨ヲ通知ス
- 第七十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ通知ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支部局ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ其仕拂ヲナスヘキ旨ヲ分任收支命令官ニ達ス
- 第七十七條 分任收支命令官ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス
- 第七十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第七十六條若クハ第七十七條ノ命令ヲ受ルトキハ第七十一條ノ手續キヲナス
- 第七十九條 年金ノ交付主管廳ハ出願期限後ニ年金受領者ノ奉職地ヲ轉シタルカ爲メ主管廳轉換願ヲ聞届ケタルトキハ其姓名新任地并ニ交付スヘキ金額ヲ詳記シ之ヲ大藏省及新主管廳ヘ報告ス
- 第八十條 大藏省ハ前條ノ報告ニヨリ新主管廳ニ該年金交付ノ令達ヲナス
- 第八十一條 新主管廳ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第六十九條第七十條第

○第一類○行政法○歳出取扱順序

七十一條ノ手續キヲナス

第八十二條 本章各條ニ歷擧スルモノ、外ハ第十條ヨリ第十九條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續キニ據ル

第五章 金庫 大藏省金庫局共出
張所現金仕拂所

第八十三條 金庫ハ仕拂切符ノ所有者ヨリ仕拂切符ヲ持參シテ現金ノ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ即時之ヲ發シ其發行廳ヨリ送付ヲ受ケタル案内書ニ照合シ帳記ノ後直ニ仕拂切符表面ノ金額ヲ交付ス

第八十四條 金庫ハ前條ノ仕拂ヲ終ルトキハ即時引上タル仕拂切符及案内書ノ表面ニ仕拂濟ノ印ヲ捺ス

第八十五條 金庫ニ於テ仕拂金ノ記帳ヲナスハ仕拂切符ニヨリ其所屬年度及科目ハ案内書ニ據テ判別ス

第八十六條 金庫ハ會計主務官又ハ其代理官ヨリ仕拂ノ案内書ヲ受ルトキ豫テ大藏省ヨリ命令セラレタル金額ニ超過スルトキハ即時其案内書ヲ返付シテ仕拂カタキ旨ヲ通知ス

第八十七條 金庫ハ仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ヲ以テ現金ノ仕拂ヲ請求セラル、トキハ其仕拂ヲ謝絶シ仕拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告ク

第八十八條 金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受クルトキハ規則第四十九條ニヨリ仕拂ヲナシ難シト見認ルトキハ該切符持參人ニ事由ヲ告ク其住處姓名ヲ尋問シ該切符ノ金員番號記名者ノ姓名及ヒ預リ日限ヲ記載シタル預リ證書ヲ交付シテ其仕拂切符ヲ留置ク

第八十九條 金庫ハ前條ノ手續キニヨリ仕拂切符ノ留置ヲナスキハ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該仕拂切符ニ記名ノ會計主務官又ハ其代理官ニ發ス

第九十條 金庫ハ前條照會ニヨリ會計主務官又ハ其代理官ヨリ該切符ノ正當ナルヲ保證シ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ直ニ之カ仕拂ヲナシ若シ該切符ヲ其持參人ニ返付セシメテ請求セラレタルトキハ前日交付シタル預リ證書ニ引換ヘ之ヲ還付ス

第九十一條 仕拂切符ノ仕拂期限ヲ經過シテ尙仕拂ノ請求ナキトキハ金庫ハ豫テ受入レタル案内書ヲ一ヶ月三回ニ取纏メ其送付シタル廳ヘ還付ス但會計主務官又ハ其代理官ノ請求アルトキハ其都度案内書ヲ還付ス

第九十二條 金庫ハ已ニ仕拂タル現金ノ返納ヲ受クルトキハ返納告知書ニ接續シタル領收證書用紙ニ第十六號書式ノ如ク領收金額年月日等ヲ

○第一類○行政法○歳出取扱順序

記入シ記名捺印シ返納告知書ト接續ノ處へ割印シ之ヲ切斷シテ領收證書ハ返納人へ交付ス

第九十二條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後返納告知書ノ裏面ニ領收ノ年月日ヲ記入シ金庫印并ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ記帳ノ上毎日取纏メ翌日迄ニ該返納告知書ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官へ送付ス

▲明治十九年五月大藏省訓令第拾九號 北海道廳 府縣

歲入取扱順序第十六條ニ據リ歲入徵收ノ委托ヲ受タル場合ニ於テハ其發付スル納額告知書及納付書ニ「某廳主管」ノ印ヲ押捺セシムヘシ

○第四款 諸貸付金整理順序

▲明治十九年四月大藏省訓令第五號

北海道廳 府縣

諸貸付金整理方ノ儀十九年度以後左ノ通心得ヘシ
但書式ハ別ニ送付ス (書式客ス)

諸貸付金整理順序

第一條 諸貸付金ノ徵收ハ明治十九年(三月)閣令第三號歲入歲出納規則ニ準據スルモノトス

第二條 諸貸付金ヲ徵收スルニ付テハ明治十九年(三月)當省令第四號歲

入取扱順序第十六條第十七條ニ據ル

第三條 諸貸付金ハ左ニ掲グル科目ニ分ツテ整理スヘシ

- 一 舊藩貸 從前ノ舊藩貸ヲ云フ
- 二 勸業貸 從前ノ勸業貸ヲ云フ
- 三 繰替貸 豫備金繰替金、舊島田組貸付金等ヲ云フ

四 雜種貸

從前ノ救助貸、雜貸、官方貸、外國債代償、石高貸并ニ從來雜收入トシテ納入スヘキモノ、内諸過渡金諸拂下代諸貸下料其他訴訟入費償却金等ノ類ニシテ年月賦若シハ置据ノ後上納スヘキモノ及身代限ノ處分ヲ受ケ追テ身代持直次第上納スヘキモノヲ云フ

第四條 諸貸付金返納期限ニ際シ困難ノ事情等ニ依リ猶豫ヲ請フ場合ニ於テハ各廳限リ六箇月以内ノ延期ヲ與フルコトヲ得

第五條 左ニ掲グル諸件ハ處分ヲ了シタル後其事由ヲ詳記シ計算書ヲ付シ每一箇月取纏メ翌月五日限當省へ報告スヘシ

一年賦返納金ヲ繰上ケ又ハ返納年度未定ノ金額ヲ一時ニ上納ヲ願出タルトキ

二 舊藩貸付金ニ係ル年賦返納金ヲ利引ヲ以テ一時ニ返納ヲ願出タルトキ

○第一類○行政法○諸貸付金整理順序

但勸業貸繰替貸及雜種貸ト雖モ別段ノ伺定アルモノハ本項ニ據ル

三負債主ノ移轉ニ因リ他ノ管廳ヘ引繼キ若シクハ之ヲ引受ケタルトキ

四負債主失踪シタルトキ

五負債主身代限ノ處分ヲ受ケタルトキ

六負債主死亡若シクハ退隱等ニテ相續人ヘ負債ノ義務移轉シタルトキ

第六條 左ニ掲クル諸件ハ事由ヲ詳悉シ處分ノ見込ヲ具シ經伺ノ上處理スヘシ

一 諸貸付金返納ノ年月賦ヲ變換シ若シクハ負債ノ義務他人ヘ移轉ヲ願出タルトキ

二 諸貸付金ニ對スル抵當品ノ増減交換ヲ願出タルトキ

三 諸貸付金ノ棄捐又ハ利子ノ減却或ハ免除ニ係ルモノ

第七條 諸貸付返納金ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ現收シタル額ヲ以テ一週年度ノ決算トス

第八條 第五條第二項ノ利引額第三項ノ引繼額又ハ引受額ハ報告ノ月ニ

於テ加除スヘシ

第九條 第五條第四項ニ係ル未納金額ハ報告ノ月ニ於テ返納年度未定ノ部ヘ組替共三十六箇月經過ノ後尙徵收ノ途ナキトキハ雜種貸中還納未定ノ部ヘ組替ユヘシ

第十條 第五條第五項ニ係ル分配金ハ相當ノ科目ヘ收納シ未納金額ハ報告ノ月ニ於テ雜種貸中還納未定ノ部ヘ組替ユヘシ

第十一條 第六條第一項返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ第三項ノ棄捐等ニ係ルモノハ指令日附ノ月ニ於テ加除スヘシ

第十二條 左ニ掲クル諸件ハ其期限後十五日以内ニ該廳ヲ發シ當省ヘ送付スヘシ

一 毎年四月一日ノ現狀ニ依リ諸貸付未納金報告書(書式第一號)及ヒ

返納年度未定内譯表(書式第二號)ヲ調製スルヲ

二 前項報告書ニ對シ其増減ヲ毎年八月一日十二月一日ノ現狀ニ依リ

増減報告表(書式第三號)ヲ調製スルヲ

三 毎月納済ノ金額ハ歳入取扱順序第二十五條ニ準シ歳入報告書ヲ調製スルヲ

四 前項ノ報告書ト同時ニ勸業貸及繰替貸ノ收入濟仕譯書(書式第四

○第一類○行政法○諸貸付金整理順序

號)ヲ調製スル

第五第四條ニ依リ諸貸付金ノ返納期限ヲ六箇月以内延期シタルトキハ
毎月之レカ報告書(書式第五號)ヲ調製スル

第十三條 此整理順序ニ對シ從前ノ當省達中矛盾スル廉ハ廢止ス

▲明治十九年一月大藏省達第七號

府 縣

諸貸下金及繰替貸其他返納金等ノ事務自今當省書記局整理課ニ於テ管理
セシム

▲明治十九年一月大藏省達第九號

府 縣

諸貸下金未納證書及ヒ受拂勘定帳調成方ノ儀十九年度以降左ノ通心得ヘ
シ

未納證書ハ四月一日ノ現狀ニ依ルヘシ

受拂勘定帳ハ會計年度一回トスヘシ

追補勘定帳ハ調製ニ及ハス

○第五款 諸貸付金返納取扱方

▲明治十九年五月農商務省訓令第四號

北海道廳 府縣

當省諸貸付金返納取扱方ノ儀十九年度以後左ノ通心得ヘシ

諸貸付金徵收取扱順序

第一條 當省貸下金ノ徵收ハ明治十九年(四月)大藏省訓令第五號諸貸付

金整理順序ニ準據スルモノトス

第二條 諸貸下金ヲ徵收スルニ付テハ豫テ定ムル處ノ返納期限ニ先ダテ

各廳ニ於テ隨時納額告知書ヲ發スヘシ

第三條 整理順序第四條第五條第六條ノ處分ニ係ルモノハ其時々當省ヘ

伺出ヘシ

第四條 毎月納濟ノ金額ハ整理順序第十二條第三項第四項ニ掲グル報告

書及仕譯書ヲ調製シ翌月十日迄ニ當省ヘ送附スヘシ其第一項第二項第

五項ニ係ル調書ハ差出ニ及ハス

○第六款 甲乙廳經費金返附方心得

▲明治十九年五月大藏省訓令第四號

北海道 府縣

甲廳ヨリ乙廳ヘ經費金ヲ返付スルトキハ左ノ通心得ヘシ

- 一 乙廳ノ會計主務官ハ返付ヲ受ヘキ金員ノ返納告知書ヲ甲廳ノ會計主
務官ヘ宛送付ス
- 一 甲廳ノ會計主務官ハ乙廳ノ會計主務官ヲ受取人トシ仕拂切符ヲ發ス

○第一類 ○行政法 ○諸貸付金返納取扱方 ○甲乙廳經費金返附方心得 六百十一

但甲乙廳地ヲ異ニスルトキハ歲出取扱順序第六條又ハ第七條ニ據リ
仕拂切符ヲ發ス

一 同金庫ニ於テ甲乙兩廳ノ經費金ヲ併セ取扱フ場合ニ於テハ甲廳ノ會
計主務官ハ前項ノ仕拂切符ヲ乙廳ヨリ送付シタル返納告知書ニ添ヘ
其指定セラレタル金庫ヘ送付ス

一 同金庫ニ於テ甲乙兩廳ノ經費金ヲ併セ取扱ハサル場合ニ於テハ甲廳
ノ會計主務官ハ送金ヲ金庫ニ請求シ送金手形ヲ得テ返納告知書ニ添
ヘ其指定セラレタル金庫ヘ送付ス但便宜ノ爲メ乙廳ノ會計主務官ニ
依頼シテ金庫ヘ納付ヲ請フハ適宜ナルヘシ

○第廿七章 旅費

○第一款 內國旅費規則

▲明治十九年六月閣令第拾四號

各官廳

內國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治九年太政官第六拾四號達旅費
定則中內國ノ部ハ廢止ス

內國旅費規則

第一條 內國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ旅行中一切ノ
費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第二條 內國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順
路ノ路程ニ依リ瀛車賃瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ
管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行瀛船賃ハ瀛船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ
休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入傭入タル舟車馬等ニテ旅行シ
若シハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ本
令ノ瀛車賃瀛船賃及車馬賃ヲ支給セス

第五條 瀛車賃ハ哩數瀛船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ
之ヲ支給スヘシ

外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ管外
ニ準シ又管内巡回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管
内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニ

ハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ
數ニ應シテ日當チ支給スヘシ

第八條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數チ合算
シテ之チ支給スヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之チ區別シ旅費チ計
算スヘシ但瀛車賃及瀛船賃ハ會計年度ニ係ハラス瀛車瀛船ノ到達地ニ
著シタル日ヲ以テ之チ區別シテ計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場チ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給
セス日當額ニ三割チ増給スヘシ

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃瀛
車賃若クハ瀛船賃ノ二倍チ支給スヘシ

第十二條 廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セ
シムルトキハ前官相當ノ旅費チ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召換スルモノハ其新任官相當ノ旅費チ支給
スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路チ通過スルトキハ
順路ノ路程ニ應シ旅費チ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當チ以テ舊
任地マテノ旅費チ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當チ支給スル爲メ其日數チ計算スルハ
瀛車旅行ハ一日二百哩計、瀛船旅行ハ一日百海里計、陸路旅行ハ一日十
二里計トス但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ
一チ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數チ計
算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特
ニ其旅費額ヲ定メ月額チ以テ之チ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費チ減少スルコトヲ得

第十九條 府知事縣令ハ三等旅費郡區長ハ五等旅費チ支給スヘシ

第二十條 陸海軍武官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ
之チ定ムヘシ

第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏
大臣ト協議シテ之チ定ムヘシ

別 表

○第一類○行政法○內國旅費規則

旅費額		管外車馬賃		管內車馬賃		管外日當		管內日當	
等級	官級	一哩毎	一海里毎	一里毎	一里毎	一日毎	一日毎	一日毎	一日毎
一等親任	官	金拾五錢	金拾五錢	金五拾六	金三拾貳	金四圓	金三圓	金四圓	金三圓
二等勅任	一等官 二等官	金拾貳錢	金拾貳錢	金四拾貳	金貳拾四	金三圓	金貳圓	金三圓	金貳圓
三等奏任	一等官 二等官 三等官 四等官	金九錢	金九錢	金貳拾八	金拾六錢	金貳圓	金壹圓	金貳圓	金壹圓
四等奏任 試補	五等官 六等官	金九錢	金九錢	金貳拾貳	金拾貳錢	金壹圓	金壹圓	金壹圓	金壹圓
五等判任	四等以上	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢	金九拾錢	金七拾錢
六等判任	五等以下	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢	金七拾錢	金五拾錢

○第二款 內國旅費規則心得

北海道 府縣

▲明治十九年六月大藏省訓令第二十三號
閣令第十四號ヲ以テ內國旅費規則ヲ定メテ左ノ通心得ヘシ

一 府縣大少書記官ハ三等旅費收稅長ハ四等旅費屬官判任御用掛ハ月俸四十圓以上五等旅費月俸四十圓未滿六等旅費ヲ給スヘシ

一 北海道廳長官府知事縣令ハ旅行ヲ命スルトキ豫メ事務ノ便宜路程ノ近便等ヲ量リ經過ノ路筋旅行日數ヲ定ムヘシ

一 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ

一 非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辨シ難キト見認ルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ見込ヲ以テ隨時實費拂ヲ許可スヘシ

一 海里ノ距離ハ明治五年第三百三十號布告ニ據ルヘシ

一 赴任旅費ハ在官者ニシテ在勤地ヲ轉シタル時ニ限り之ヲ支給スヘシ

一 新ニ任用ノ者ハ在勤地マテ規則第十三條ノ旅費ヲ支給スヘシ

一 兼官者ハ兼官ノ用務ニ據リ旅行スルトキハ兼官相當ノ旅費ヲ給シ本官兼官ノ用務ヲ兼ルトキハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

○第一類 ○行政法 ○內國旅費規則心得

但兼官無給ナルトキ其旅費額ハ本官ノ給額ニ依ル
一從前特例ヲ以テ旅費ノ支給法ヲ定メタルモノト雖總テ閣令第十四號内
國旅費規則ニ據ルヘシ

○第三款 警察官其他旅費概則

▲明治十九年六月内務省令第拾壹號 警視廳、府縣集治監、假留監
警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員其他内國旅費概則左ノ通相定ム
但來七月一日ヨリ施行スヘシ

警察官吏其他内國旅費概則

第一條 警視警部長警部警部補ノ旅費ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據
リ支給スヘシ但警部長ハ四等旅費府縣ノ警部月俸四拾圓以上ハ五等旅
費月俸四拾圓未滿及警部補ハ六等旅費ヲ支給スルモノトス

第二條 警視及警部警部補ノ持区内ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切
ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 警視 日當 金壹圓貳拾錢
- 警部 日當 金八拾錢
- 警部補 日當 金八拾錢
- 第一項 十二里以上ノ巡廻ハ其日數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 六里以上十二里未滿ノ巡廻ハ其日數ニ應シ日當半額ヲ支給
スヘシ

第三項 六里以上ニ涉ル巡廻中滞在スルトキハ其滞在ノ日數ニ應シ
日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第四項 六里未滿ノ巡廻ハ日當ヲ給セス但宿泊ヲ要スルトキハ其泊
數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第五項 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ派
出シ又ハ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ日數ニ應シ日
當ノ半額ヲ支給スヘシ但里程六里未滿ノトキハ第四項ニ依ル

第六項 水上警察署ノ区内ハ里數ニ拘ハラズ一泊毎ニ日當ノ半額ヲ
支給スヘシ

第三條 巡查ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
第一項 巡查ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 召募旅費及免職歸國旅費 給助例施
行ノ期迄
スヘシ但里程二里未滿ハ給與セス

第三項 免職歸國旅費ハ奉職期限ニ至ラサル者ニハ支給セスト雖モ
職務上重傷ヲ受ケ又ハ官ノ都合ニヨリ免職スルモノハ支給スヘシ

○第一類 ○行政法 ○警察官其他旅費概則

第四項 職務上ニ死シ及奉職中病死スル者ハ奉職期限ニ拘ハラズ歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ支給スヘシ

第四條 巡查持区内ヲ巡廻スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

巡查日當 金三拾錢

第一項 巡廻中宿泊スルトキハ其泊數ニ應ジ日當ヲ支給スヘシ

第二項 至急ノ派出ヲ要シ特ニ舟車馬ノ傭入ヲ許可シタルトキハ該實費ヲ支拂ヘシ但此場合ニ於テモ日當ハ前項ニ依ル

第五條 集治監及假留監典獄副典獄書記看守長御用掛ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 典獄ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費副典獄ハ同五等旅費ヲ支給スヘシ

第二項 書記看守長判任御用掛ハ月俸四拾圓以上ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ五等旅費月俸四拾圓未満ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第六條 官社神官ノ旅費祭主ハ閣令第十四號内國旅費規則ノ三等旅費宮司權宮司ハ同五等旅費禰宜主典宮掌ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第七條 看守等外吏等外御用掛雇員等ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 看守等外吏等外御用掛及雇員ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 看守ノ召募旅費及免職歸國旅費ハ第三條ノ第二項第三項第四項ニ依ルヘシ

第三項 押丁給仕小使職工等ハ乙號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第四項 華族及從六位勳六等以上ノ士民ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ閣令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費其他有位帶勳ノ士民同上ノ節ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第五項 一般ノ人民同上ノ節ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八條 支給ノ方法ハ第二條及第三條ノ第二項第三項第四項第四條及第七條ノ第二項ヲ除クノ外總テ閣令第十四號内國旅費規則ニ依ルヘシ

第九條 地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

甲號表

瀛車賃	瀛船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
二哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五拾錢	金三拾錢

乙號表

○第一類○行政法○警察官其他旅費概則○内國旅費支給方心得 六百二十一

漚車賃	漚船賃	陸路雜費	日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ
金三錢	金三錢	金四錢	金三拾錢

▲明治十九年六月内務省訓令第九號

北海道廳

其廳警察官吏及神官ノ旅費ハ當省令第十一號ニ據リ支給スヘシ

○第四款 内國旅費支給方心得

▲明治十九年六月大藏省訓令第二拾八號

閣令第十四號ヲ以テ定メラレタル旅費支給方左ノ通心得ヘシ

一 北海道廳集治監典獄ハ内國旅費規則四等旅費ヲ給ス

一 内國稅徵收費支辨ニ係ル府縣等外出仕等外御用掛及傭員ノ旅費額ハ

左表ニ據ル

漚車賃	漚船賃	管外車馬賃	管內車馬賃	管外日當	管內日當
一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五十錢	金三十錢

一 北海道廳府縣ノ判任官并ニ準判任官新官制ニ據リ官等ハ屬官御用掛ヲ定メサルモノノ外ト雖總テ當省訓令第二十三號第一項ニ據リテ旅費ヲ給ス但地方稅支辨ノ官吏ト雖國庫ヨリ旅費ヲ給スルトキ亦同シ

一 支給上新舊旅費規則相跨リタル場合ニ於テハ新規則施行期日後直ニ到着セシ御用地ヲ以テ打切り又巡廻中ノ者ハ該期日ヲ押ヘ新舊支給方ヲ區分スヘシ

○二十八章 印紙

○第一款 印紙類賣下賣捌規則

▲明治十九年六月大藏省令第二拾壹號

印紙類賣下賣捌規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前ノ印紙類賣捌規程ハ同日ヨリ廢止ス

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ヲ以テ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類左ノ如シ

證券印紙 手形用紙共

煙草印紙

訴訟用印紙

○第一類 ○行政法 ○印紙類賣下賣捌規則

賣藥印紙

第二條 印紙類ノ賣下ハ地方廳之ヲ管理シ郡區役所ヲシテ其手續ヲ爲サシムヘシ

第三條 印紙類ハ第五條第六條ニ依リ賣捌ノ許可ヲ得タル者ノ外賣下ヲ爲サハルモノトス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ其管内各郡區ノ實況ニ應シ印紙類賣捌所ノ配置方ヲ計畫シ豫メ其員數ヲ定メ之ヲ大藏省ニ届出ヘシ

第五條 印紙類ノ賣捌ハ左ノ資格アリテ其郡區内ニ居住スル者ニ限り之ヲ許ス

一陸軍海軍及ヒ官吏恩給令ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一巡查看守給助例ニ依リテ傷痍ノ爲メ終身恩給ヲ受クル者

一陸軍恩給令第二十一條第一項海軍恩給令第二十二條第一項官吏恩給令第十條ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

一巡查看守給助例第二條第三項ニ掲クル寡婦孤兒ニシテ扶助料ヲ受クル者

第六條 第五條ノ資格アル出願者其郡區内印紙賣捌所ノ定數ニ滿タサルトキハ其郡區内ニ居住シテ一般陸軍恩給令海軍恩給令官吏恩給令巡査

看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ヲ以テ之ニ充ツ可シ
前項資格アル者ヲ以テスルモ猶定數ニ滿タサルトキハ二年以内ノ期限ヲ定メ一般人民ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 煙草營業人若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ煙草印紙賣捌ヲ許可セズ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙賣捌ヲ許可セサルモノトス

煙草稅則第三十九條賣藥印紙稅規則第八條訴訟用印紙規則第十一條證券印稅規則第二十五條ニ依リ處罰ヲ受ケタル者ニハ滿三年間印紙類ノ賣捌ヲ許可セサルモノトス

第八條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ居住地ノ郡區役所ニ願出テ賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第九條 印紙類賣捌人改名又ハ同郡區内ニ轉居ノ節ハ其郡區役所ニ申出テ標札ノ訂正ヲ受クヘシ但標札燒失毀損等ノ節ハ更ニ其下渡ヲ受クヘシ

第十條 印紙類ハ其代金上納ノ後之ヲ下渡ス可シ
但第五條第六條ノ受恩典者ニハ其代金五百圓マテハ公債證書ヲ抵當トナシ六箇月以内之レカ延納ヲ許スコトアル可シ

第十一條 印紙類ハ各一口ノ拂受高ニ從ヒ左ノ割引法ヲ以テ賣下ヲ爲

○第一類○行政法○印紙類賣下賣捌規則

大可シ

拂受高一ト口

割引高

五百圓未滿

百分ノ七

五千圓未滿

百分ノ八

五千圓以上

百分ノ九

第十二條 印紙類ハ賣捌所ノ外ニ於テ一切賣捌クヲ得ス

第十三條 印紙類ハ必ス定價ヲ以テ賣捌クヘシ賣捌ノ外讓與貸與スルコトヲ許サス

第十四條 印紙類賣捌人ハ印紙受拂ノ帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ

但烟草印紙賣藥印紙ヲ賣捌タルキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置ヘシ

第十五條 印紙類水火盜難等ノ爲メニ亡失スルモ其代金ノ返付ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條 印紙類賣捌人所持ノ印紙ニシテ損傷又ハ汚染シタルモノハ十錢以上取纏メタルモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ之ヲ交換スヘシ
損傷 印紙一圓ニ對シ 交換下付印紙八十錢
汚染 印紙一圓ニ對シ 交換下付印紙八十錢

第十七條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ル時ハ賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌標札ヲ返納ス可シ此場合ニ於テハ返納印紙面稅額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買戻ス可シ

一 廢業又ハ二箇月以上休業スル時

一 受恩典者ニシテ恩給ヲ受クルノ權消絶シ又ハ恩給停止ヲ受ケタル時

一 他郡區ニ移住スル時

一 賣捌ヲ禁止セラレタル時

第十八條 烟草印紙賣藥印紙ハ他府縣居住ノ者ニ賣渡スコトヲ許サス

第十九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者ハ烟草印紙賣捌ニ關スル業務ヲ烟草營業者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス賣藥印紙ノ賣捌ニ關スル業務ヲ賣藥營業者請賣者行商者若クハ其家族又ハ同居ノ者ニ委託スルコトヲ得ス

第二十條 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時主任官ヲ派遣シ印紙類賣捌ノ實況及ヒ現在高等ヲ検査セシムヘシ

第二十一條 此規則ニ違背シタル者アル時ハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府知事縣令ニ於テ其賣捌方ヲ禁止スルコトアル可シ

○第一類○行政法○印紙類賣下賣捌規則

○第二款 印紙類賣下賣捌規則取扱手續

▲明治十九年六月大藏省令第二拾二號

北海道廳府縣沖繩縣ヲ除ク

明治十九年(六月)當省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則取扱手續左ノ通
心得ヘシ

印紙類賣下賣捌規則取扱手續

- 第一項 印紙類賣捌所ノ配置ヲ計畫スルニハ從來賣捌ノ景狀ニ依リ且土地ノ便否商況等ヲ參酌シ總ヘテ印紙ノ賣買ニ差支ナキヲ期シテ之ヲ定ムヘシ
- 第二項 印紙類ハ需用ノ景況ト現在高トチ參酌シ凡六箇月分賣下ノ見込相立第一號雛形ニ倣ヒ主稅局ニ請求スヘシ
- 第三項 印紙類ノ受拂ハ主任官二名以上ノ立會ヲ要スルモノトス
- 第四項 印紙類到達ノ節ハ日數五日以内第二號雛形ニ倣ヒ到達ノ月日ヲ記載セシ領收證書ヲ主稅局ニ送付スヘシ
- 第五項 印紙類賣捌所ノ標札ハ第三號雛形ニ據リ調製下付スヘシ但二種以上賣捌クモノハ各種類ヲ一枚ニ併記スルモ妨ケナシ
- 第六項 他府縣ヨリ轉籍又ハ寄留シタル者若クハ他郡區ヨリ轉居シタル

者ニシテ印紙類ノ賣捌ヲ請願スル時ハ規則第七條二項ノ年限中ニ係ラサル者ナルヤ否及第二十一條ニ據リ禁止セラレタルコトナキヤ否ヲ詳查スヘシ

第七項 印紙類賣捌人員増減ハ一箇年ヲ二期ニ分チ第四號雛形ニ倣ヒ十二
月末日ノ現在員ヲ取調ヘ七月二十日限り其應差立主稅局ヘ送付スヘシ

第八項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金ノ延納ヲ許可スル時ハ其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ明治十三年當省乙第一號達ニ據テ之ヲ定ムヘシ

但代金延納ヲ許可シタル時ハ第五號雛形ニ倣ヒ賣捌人ヨリ上納ノ受書ヲ差出サシムヘシ

第九項 規則第十條但書ニ依リ延納ノ代金其收入方翌年度ニ亘ル者ハ現收入年度ノ稅表ニ編入スヘシ

第十項 印紙類ヲ運送會社ニ運搬セシメタル分ハ到達ノ節社員等爲立會
檢査ヲ遂ケ若シ損傷汚染或ハ護謨糊粘着等ニテ全ク使用シ得ヘカヲサ
ルモノヲ發見シタル時ハ社員ノ手續書ヲ徵シ之ニ其枚數調書ヲ添付シ
處分方ヲ稟議スヘシ

但天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社員外二名以上ノ證明

○第一類○行政法○印紙類賣下賣捌規則取扱手續

ヲ爲サシムヘシ

第十一項 印紙類萬一封中ノ員數ニ過不足ヲ生シタルモノアル時ハ其封紙帶紙ニ立會官吏ノ姓名書ヲ添付シ處分方ヲ稟議スヘシ

第十二項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタル時ハ主任ニ於テ即日受拂及ヒ殘高ヲ記帳シ現在高ト對照スヘシ

第十三項 前項ノ場合ニ於テ主任官交代スル時ハ帳簿ト現在高トヲ對照シ受渡ヲナスヘシ

第十四項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ依リ返納セシ印紙(代金延納ノナ)ハ其種類(長角形ヲ除ク)ハ其種類(區分シ)枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代

金下付方ヲ稟議スヘシ

但代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル時ハ代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ

第十五項 北海道廳長官府知事縣令ハ隨時各郡區役所ニ主任官ヲ派遣シ印紙類受拂ノ實況及ヒ現在高等ヲ精査セシムヘシ

(第一號雛形)

前々年度賣下高何程
 前年度賣下高何程
 合何程
 但平均一箇月何程
 (但前々年度前年度平均ヲ得ルコト能ハサルモノハ前六箇月分ヲ記載スヘシ)(以上四行朱書)

一何印紙
 (印紙ノ異ル毎ニ前同シ)
 右ハ何年何月ヨリ何月迄六箇月分及請求候也

年月日
 何府縣收稅長名 印
 北海道廳理事官
 主稅局長宛

(第二號雛形)

何年月日差立 何年月日到着

諸	領收證	
印	一烟草何久用何厘印紙 一何角形何厘印紙	何枚 何枚

○第一類○行政法○印紙類賣下賣捌規則取扱手續

紙類領收書用紙

- 一 證券何錢印紙
- 一 訴訟用何圓印紙
- 一 賣藥角形何錢印紙
- 一 同長形何錢印紙

何枚
何枚
何枚
何枚

- 一 約束手形何錢用紙
- 一 爲換手形何錢用紙

何枚
何枚

年月日

主稅局長宛

府縣收稅長
北海道廳理事官

名 印

(第三號雛形)

郡區役所々轄限リ
通シ番號

曲尺長二尺九寸

面表

□ 何々印紙賣捌所

第何號烙印

何府縣何國何郡何町何番地

何村何番地
何某

モロコシ

(第四號雛形) 用紙美濃紙

明治何年何月印紙類賣捌人員表

郡區名	規則第何條ノ受恩典者		計	非恩典者		合計	前期ニ比較増減(朱書)
	五條ノ受恩典者	六條ノ受恩典者		計	合計		

右之通候也

年月日

主稅局長宛

府縣收稅長
北海道廳理事官

名 印

(第五號雛形)

延納代金上納受書

消印

印紙

印紙賣下代金上納御受書

○第一類○行政法○印紙類賣下賣捌規則取扱手續

一 印紙代金何圓

內譯 (印紙種類及枚數ヲ掲記スヘシ)

右印紙代金ノ儀ハ來何月何日無相違上納可仕依テ右代金ニ對シ別紙公債證書ヲ抵當トシテ差出候若シ上納期日ニ不納候時ハ該公債證書御賣拂ノ上印紙代金御徵收相成御異議無之且印紙類ノ保護ハ勿論万一水火盜難等有之候トモ右印紙代金ハ急度上納可致候此段御受申上候也

但印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ハラス直ニ上納可仕候也

國區町番地
郡村

印紙賣捌人

年月日 名 印

他人記名ノ公債證書ヲ借受ケ抵當トスル時ハ其記名者ノ連署ヲ要スヘシ戸長與印同斷

北海道廳
府縣長官宛

右相違無之依テ與印候也

年月日

右戸長 名

印

○第三款 小切手押印稅徵收方

▲明治十九年四月大藏省告示第二拾壹號

證券印稅規則第二條第一類證書中當座預リ金引出小切手押印稅徵收方は迄當省ニ於テ取扱タル處明治十九年度以後右徵收ハ當分ノ内東京府各區役所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス
右告示ス

○第廿九章 貨幣

○第一款 貨幣條例

▲明治十八年十二月布告第四拾壹號

明治八年(六月)第百八號布告貨幣條例公差表中補助銀貨品位公差純分千ニ付二一トアルヲ自今純分千ニ付二ト改ム
右奉 勅旨布告候事

○第二款 貨幣交換

▲明治十八年六月布告第拾四號

○第一類 ○行政法 ○小切手押印稅徵收方
○貨幣條例 ○貨幣交換

以府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ
但交換ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第三款 舊金銀貨價格

▲明治十八年七月大藏省告示第百三號
舊金銀貨價格表別冊ノ通り改正ス
右告示候事
(別冊) 舊貨幣價格表

慶長 小判一個 十〇圓十三錢二厘
內 金貨十〇圓〇三錢二厘
一圓銀十〇錢二厘

慶長金小判 十兩量目五弓七二二六二
武藏一分判 十兩量目五弓七二二六二
內 金四弓八九五一四位千分中 金八五、六、九
銀〇弓八一四〇五位千分中 銀一四二、五、六
此貨幣 金百〇圓五十五錢六厘一九
銀壹〇圓四錢三厘六五

武藏

二分判 二個 二圓五十三錢三厘
內 金貨二圓五十五錢八厘
一圓銀二錢五厘
正徳四年間所作ニ係ル因テ世ニ之ヲ正徳金トモ云フ

計百〇二圓五十四錢九厘八四
內 金四十八錢九厘五一精製分析料
同七十一錢〇厘五四鑄造料
銀二錢一厘四一 同斷
同二錢〇厘四四
殘 金百〇圓三十三錢六厘一四
銀壹圓〇壹錢壹厘八〇
計 百〇壹圓三十壹錢七厘九四

小判一個 六圓九十一錢〇
內 金貨六圓六十錢三厘
一圓銀三十錢七厘
元祿一分判 一個 一圓七十二錢七厘
內 金貨一圓六十五錢一厘
一圓銀七錢六厘
二朱判 一個 八十六錢四厘
內 金貨八十二錢五厘
一圓銀三錢九厘

元祿金小判 十兩量目五弓七二二五二
內 金三弓二二二四三位千分中 金五六四、一
銀二弓四六七二四位千分中 銀四三一、九
此貨幣 金六十六圓八十二錢〇厘七八
銀三圓十六錢三厘一三 雜〇〇四、〇
計 六十九圓九十八錢三厘九一
內 金三十三錢二厘二四
同四十六錢七厘七五 費用前ニ同シ
銀六錢四厘八九
同三錢一厘六三
殘 金六十六圓〇三錢〇厘七八
銀三圓〇六錢六厘六一
計 六十九圓〇九錢七厘四〇

○第一類○行政法○舊金銀貨價格

乾字

小判一個 五圓十九錢一厘

內 金貨五圓十二錢九厘
一圓銀六錢二厘

一分判一個 一圓二十九錢八厘

內 金貨一圓二十八錢二厘
一圓銀一錢六厘

小判一個 十圓十八錢四厘

內 金貨十圓九錢〇
一圓銀九錢四厘

享保

一分判一個 二圓五十四錢六厘

內 金貨二圓五十二錢三厘
一圓銀二錢三厘

乾字金小判十兩量目三〇〇一四二一

內 金二〇五〇三一八位千分中 金八三四〇
銀〇四九六七三位千分中 銀一六五〇五

此貨幣 金五十一圓九十九錢六厘二五

計 五十一圓五十四錢三厘〇八

內 同三十五錢〇厘三三
同三十六錢三厘三四
同三十三錢三厘〇六
費用前二同

殘 金五十一圓二十九錢二厘五九

計 五十一圓九十九錢九厘九九

享保金小判十兩量目五〇六七九五二

內 金四〇九二四一四位千分中 金八六七〇
銀〇七五二五四四位千分中 銀一三二二五

此貨幣 金百〇二圓十錢七厘六八

計 百〇二圓〇七錢二厘四八

內 同四十九錢二厘四一
同七十一錢四厘七五
同九錢九厘七九
費用前二同

殘 金百〇圓九十九錢〇厘五二

計 百〇一圓八十三錢五厘八八

元文

小判一個 五圓七十九錢七厘

內 金貨五圓六十一錢六厘
一圓銀十八錢一厘

一分判一個 一圓四十四錢九厘

內 金貨一圓四十四錢四厘
一圓銀四錢五厘

文政二分判一個 二圓五十四錢〇

內 金貨二圓四十二錢六厘
一圓銀十一錢四厘

元文金小判十兩量目四〇一九六一四

內 金二〇七四〇九二位千分中 金六五三二
銀一〇四四八九三位千分中 銀三四五三

此貨幣 金五十六圓八十三錢六厘二四

計 五十八圓六十九錢三厘七四

內 同二十七錢四厘〇九
同三十九錢七厘八五
同三錢八厘五八
費用前二同

殘 金五十六圓十六錢四厘二〇

計 五十七圓九十六錢五厘一一

文政二分判十兩量目四〇二〇五九二一

內 金二〇三六六七九三位千分中 金五六三〇
銀一〇八二九五七三位千分中 銀四三五〇〇

此貨幣 金四十九圓十錢一厘六五

計 五十一圓四十四錢七厘二六

內 同二十三錢六厘七九
同三十四錢三厘七一
同四錢八厘二二
費用前二同

殘 金四十八圓五十二錢一厘一五

計 五十一圓七十九錢五厘一八

○第一卷○行政法○舊金銀貨價格

文政

小判一個 五圓〇六錢一厘

內 金貨四圓八十三錢二厘
一圓銀二十二錢九厘

一分判一個 一圓二十六錢五厘

內 金貨一圓二十〇錢八厘
一圓銀五錢七厘

文政金小判十兩量目四号二二五二〇

內 金二号三五七九三 位千分中 金五五九〇
銀一号八四八七四 位千分中 銀四三八〇六
雜〇〇二〇〇

此貨幣 金四十八圓八十九錢四厘三一
計 五十一圓二十六錢四厘四九

內 同三十三錢五厘七九
同三十四錢二厘二六
同四錢八厘六二
同二錢三厘七〇
費用前二同

殘 金四十八圓三十一錢六厘二六
銀二圓二十九錢七厘八六

計 五十一圓六十一錢四厘一二

一朱金十兩量目七号一五〇〇〇

內 金〇号八八〇一六 位千分中 金一二三、一
銀六号二四九一〇 位千分中 銀八七四、九
雜〇〇二、九

此貨幣 金八十八圓二十五錢一厘二〇
計 二十六圓二十六錢二厘八六

內 同八錢八厘〇二
同十二錢七厘七六
同十六錢四厘三五
同八錢〇厘一二
費用前二同

殘 金八十八圓〇三錢五厘四二
銀七圓七十六錢七厘一九

計 二十五圓八十八〇錢二厘六一

一朱金 一個 十六錢一厘

內 金貨十一錢三厘
一圓銀四錢八厘

文政二分判一個 二圓二十三錢七厘

內 金貨二圓十〇錢三厘
一圓銀十三錢四厘

文政二分判十兩量目四号二〇九五六

內 金二号〇五二五八 位千分中 金四八七、六
銀二号一五一〇八 位千分中 銀五一、一、四
雜〇〇一、四

此貨幣 金四十二圓五十六錢二厘四九
計 四十五圓三十二錢〇厘二九

內 同二十九錢五厘二六
同二十九錢七厘九四
同五錢六厘五七
同二錢七厘五八
費用前二同

殘 金四十二圓〇五錢九厘二九
銀二圓六十七錢三厘六五

計 四十四圓七十三錢二厘九四

小判一個 四圓三十九錢四厘

內 金貨四圓二十〇錢〇
一圓銀十九錢四厘

天保金小判十兩量目三号六一二二四

內 金二号〇四九八九 位千分中 金五六七、五
銀二号五五八六四 位千分中 銀四三一、五
雜〇〇一、〇

此貨幣 金四十二圓五十五錢六厘八七
計 四十四圓五十一錢五厘二二

內 同二十九錢七厘五五
同二十九錢九厘九九
同四錢〇厘九九
同二錢九厘九九
費用前二同

殘 金四十二圓〇〇錢四厘三三
銀一圓九十三錢七厘二八

計 四十三圓九十四錢一厘六一

天保

一分判一個 一圓〇九錢九厘

內 金貨一圓〇五錢〇
一圓銀四錢九厘

第一類〇行政法〇舊金銀貨價格

古二朱金 一個 三十六錢七厘
內 金貨三十二錢一厘
一圓銀四錢六厘

古二朱金十兩量目四号十九八八九四
內 金一号二五二九六
銀二号九三八八四 位千分中 金二九八、四
銀六九九、九
此貨幣 金二十五圓九十八錢一厘五九
銀三圓七十六錢七厘七五
計 二十九圓七十四錢九厘三四
內 同十八錢一厘八七
同七錢七厘二九
費用前 = 同
殘 金二十五圓六十七錢四厘四二
銀三圓六十五錢二厘七八
計 二十九圓三十二錢七厘二〇

五兩判 一個 十八圓八十三錢〇
內 金貨十八圓六十一錢三厘
一圓銀二十一錢七厘

五兩判一枚量目一号〇八四六二
內 金〇号九〇八三七
銀〇号一七四〇八 位千分中 金八三七、五
銀一六〇、五
此貨幣 金十八圓八十三錢六厘〇八
銀二十二錢三厘一八
計 十九圓〇五錢九厘二六
內 同十三錢一厘八五
同四厘五八
費用前 = 同
殘 金十八圓六十一錢三厘三九
銀二十一錢六厘三七
計 十八圓八十二錢九厘七六

小判一個 三圓五十二錢八厘
內 金貨三圓三十七錢四厘
一圓銀十五錢四厘

正字云
安政金小判十兩量目二号八九〇一〇
內 金一号六四四九
銀一号二三七五四 位千分中 金五六九、七
銀四二八、二
此貨幣 金三十四圓十四錢一厘七七
銀一圓五十八錢六厘五八
計 三十五圓七十二錢八厘三三
內 同二十三錢八厘九九
同三錢二厘五五
費用前 = 同
殘 金三十三圓七十三錢八厘一三
銀一圓五十三錢八厘一六
計 三十五圓二十七錢六厘二九

安政 一分判一個 八十八錢二厘
內 金貨八十四錢三厘
一圓銀三錢九厘

安政二分判一個 九十五錢五厘
內 金貨七十七錢七厘
一圓銀十七錢八厘

安政二分判十兩量目二号六二六八九八
內 金〇号七五八七六
銀二号八六〇六〇 位千分中 金二〇九、二
銀七八八、七
此貨幣 金十五圓七十三錢三厘八一
銀三圓六十六錢七厘四三
計 十九圓四十四錢一厘二四
內 同十一錢〇厘一四
同七錢五厘八八
費用前 = 同
殘 金十五圓五十四錢七厘七九
銀三圓五十五錢五厘五三
計 十九圓十〇錢二厘三二

第一類 行政法 舊金銀貨價格

新
小判一個 一圓三十一錢三厘
內 金貨一圓二十五錢六厘
一圓銀五錢七厘

一分判一個 三十二錢八厘
內 金貨三圓一錢四厘
一圓銀一錢四厘

新二朱金 一個 十三錢七厘
內 金貨十一錢四厘
一圓銀二錢三厘

新小判十兩量目一弓〇六八九四
內 金〇弓六一三一四位千分中 金五七三、六
銀〇弓四五三三三 銀四二四、〇
雜〇〇二、四
此貨幣 金十二圓七十一錢四厘二一
銀五十八錢一厘〇七
計 十三圓二十九錢五厘二八
內 金六錢一厘三一
同八錢九厘〇〇 費用前二同
同五厘八一 銀一錢一厘九二
同五厘八一 銀五厘八一
殘 金十二圓五十六錢三厘九〇
銀五十六錢三厘三四
計 十三圓十二錢七厘二四

新二朱金十兩量目一弓九三八二一
內 金〇弓四四三八五位千分中 金二二九、〇
銀二弓四九〇四八 銀七六九、〇〇
雜〇〇二、〇〇
此貨幣 金九圓二十〇錢三厘七九
銀一圓九十一錢〇厘八七
計 十一圓十一錢四厘六六
內 金四錢四厘三九
同六錢四厘四三 費用前二同
同三錢九厘二〇 銀三錢九厘二〇
同二錢九厘一一 同二錢九厘一一
殘 金九圓〇九錢四厘九七
銀一圓八十五錢二厘五六
計 十〇圓九十四錢七厘五三

新二分判 一個 五十四錢六厘
內 金貨四十五錢三厘
一圓銀九錢三厘

慶長 大判一個 七十五圓二十一錢〇
天保吹增 保長 內 金貨七十三圓二十六錢五厘
一圓銀一圓九十四錢五厘

新二分判十兩量目一弓九三六九四
內 金〇弓四四二五九位千分中 金二二八、五
銀二弓四九〇四七 銀七六九、〇五
雜〇〇二、〇〇
此貨幣 金九圓十七錢七厘六七
銀一圓九十一錢〇厘八六
計 十一圓〇八錢八厘五三
內 金四錢四厘二六
同六錢四厘二四 費用前二同
同三錢九厘二〇 銀三錢九厘二〇
同二錢九厘一一 同二錢九厘一一
殘 金九圓〇六錢九厘一七
銀一圓八十五錢二厘五五
計 十〇圓九十二錢一厘七二

慶長 大判一枚量目五弓三二〇六七
天保吹增 保長 內 金三弓五七五四九位千分中 金六七二、〇〇
銀一弓五六四二八 銀二九四、〇〇
雜〇〇三、四〇〇
此貨幣 金七十四圓十四錢一厘九〇
銀二圓〇〇錢五厘四九
計 七十六圓十四錢七厘二九
內 金三十五錢七厘五五
同五十一錢八厘九九 費用前二同
同四錢一厘一四 銀四錢一厘一四
同二錢〇厘〇五 同二錢〇厘〇五
殘 金七十三圓二十六錢五厘三六
銀一圓九十四錢四厘三〇
計 七十五圓二十一錢九厘六六

○第一類○行政法○舊金銀貨價格

元祿大判

一個 五十九圓六十四錢八厘
內 金貨五十六圓六十八錢九厘
一圓銀三圓九十五錢九厘

元祿大判一枚量目五号三〇九〇四

內 金二号七六六五四 位千分中 金五二一、一
銀二号三八〇五七 位千分中 銀四四八、四
雜〇三〇、五

此貨幣 金五十七圓三十六錢七厘二八

計 六十〇圓四十一錢九厘二〇

內

金二十七錢六厘六五
同四十一〇錢一厘五七
同六錢三厘六一
同三錢〇厘五二

費用前 = 全

殘

金五十六圓六十八錢九厘〇六
銀二圓九十五錢八厘八九

計 五十九圓六十四錢七厘九五

新大判

一個 二十八圓四十二錢三厘
內 金貨二十五圓五十五錢〇
一圓銀二圓八十八錢三厘

新大判一枚量目三号六二九八九

內 金一号二四六八七 位千分中 金三四三、五
銀二号三二〇二二 位千分中 銀六三九、二
雜〇一七、三

此貨幣

金二十五圓八十五錢五厘二四
銀二圓九十七錢四厘六四

計 二十八圓八十二錢九厘八八

內

金十二錢四厘六九
同十八錢〇厘九九
同六錢一厘〇二
同二錢九厘七五

費用前 = 全

殘

金二十五圓五十四錢九厘五六
銀二圓八十八錢三厘八七

計 二十八圓四十三錢三厘四三

安永二朱銀 一個 一圓銀四十〇錢七厘

安永二朱銀十兩量目二十六号二四九八三

內 銀三十五号六五九二 位千分中 銀九七七、五
雜〇三二、五

此貨幣三十二圓八十九錢六厘四二

內 三十二錢八厘九六

鑄造料

殘 三十二圓五十六錢七厘四六

文政二朱銀 一個 一圓銀三十〇錢〇

文政二朱銀十兩量目十九号三三七二九

內 銀十八号九一一八七 位千分中 銀九七八、〇
雜〇二二、〇

此貨幣二十四圓二十四錢五厘九九

內 二十四錢二厘四六

費用前 = 同

殘 二十四圓〇〇錢二厘五三

○第一類○行政法○舊金銀貨價格

文政一朱銀一個 一圓銀十〇錢五厘

文政一朱銀十兩量目十二号五三一九一
內銀十二号一八九五五位千分中 銀九七四、七
雜〇二五、三
此貨幣十六圓九十〇錢九厘六八
內十六錢九厘一〇 費用前=同
殘十六圓七十四錢〇厘五八

古一分銀 一個 一圓銀三十五錢一厘

古一分銀十兩量目十一号一五四三五
內銀十一号〇五八四二位千分中 銀九九一、四
雜〇〇八、六
此貨幣十四圓十七錢七厘四六
內十四錢一厘七七 費用前=同
殘十四圓〇三錢五厘六九

一朱銀一個 一圓銀七錢五厘

一朱銀十兩量目九号七四五三五
內銀九号四三一五五位千分中 銀九六七、八
雜〇三三、二
此貨幣 十二圓〇九錢一厘七三
內十二錢〇厘九二 費用前=同
殘十一圓九十七錢〇厘八一

一分銀一個 一圓銀三十一錢五厘

一分銀十兩量目十一号一二五〇四
內銀九号九三四六六位千分中 銀八九三、〇
雜一〇七、〇
此貨幣 十二圓七十三錢六厘七四
內十二錢七厘三七 費用前=同
殘十二圓六十〇錢九厘三七

○第一類○行政法○舊金銀貨價格

安政 二朱銀一個 一圓銀四十七錢○

安政 二朱銀十兩量目三十五号一〇二五〇
大形 二朱銀二十九号六四七五七位千分中
銀八四四、六
雜一五五、四
此貨幣 三十八圓〇〇錢九厘七〇
內 三十八錢〇厘一〇 費用前ニ同
殘 三十七圓六十二錢九厘六〇

○第四款 造幣規則

▲明治十九年四月大藏省令第十六號
明治十六年五月第十五號布達造幣規則第十條及第十三條左ノ通り改正ス
第十條 輸入地金ニ對スル代リ貨幣ハ日本銀行本店及ヒ其大坂支店又ハ橫濱神戸ノ代理
店ニ於テ左ノ區別及ヒ期日ニ依リ之ヲ拂渡スヘシ但期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ日本銀
行本店又ハ其大坂支店ニ於テ期日マテ一日萬分一ノ割引ヲ以テ前渡ヲ爲スヘシ

造幣適當金銀地金	價額ニ關セズ	大阪本局ニ輸入シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ	五日目
		大阪及神戸ニ於テハ	十日目
		東京及橫濱ニ於テハ	十日目
		東京出張所ニ輸入シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ	二十日目
		東京及橫濱ニ於テハ	十日目
		大阪及神戸ニ於テハ	十日目
精製分析ヲ要スル地金	五千圓未滿	同上	同上
		同上	同上
		同上	同上
同上	壹萬圓未滿	同上	十日目
		同上	十五日目
		同上	十五日目
		同上	十五日目
		同上	十五日目
同上	三萬圓未滿	同上	十五日目
		同上	二十日目
		同上	二十日目

○第一類 ○行政法 ○造幣規則

同上

七萬圓未満

同上 同上 同上

二十日 二十五日 三十五日

同上

七萬圓以上

同上 同上 同上

二十日 二十五日 三十日 四十日

但右期日休暇ニ當ルキハ翌日拂渡スヘシ

第十三條

金銀地金又ハ内外國金銀貨幣ヲ大坂本局ニ輸入シテ東京又ハ横濱ニ於テ代リ

貨幣拂渡シテ望ムモノ又ハ東京出張所ニ輸入シテ東京横濱又ハ大坂神戸ニ於テ其拂渡

ヲ望ムモノハ左ノ區別割合ヲ以テ運賃保險料ヲ納ムヘシ

大阪本局ニ地金ヲ輸入シ東京又ハ横濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ
東京出張所ニ地金ヲ輸入シ大阪又ハ神戸ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ
東京出張所ニ地金ヲ輸入シ東京又ハ横濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ

成貨壹萬圓ニ付 運賃保險料 金參拾貳圓五拾錢

同上 同金六拾五圓

○第三十章 警察

○第一款 皇宮警察官服務規程

▲明治十九年五月宮内省達第六號

皇宮警察署

皇宮警察官服務規程左ノ通相定ム

皇宮警察官服務規程

第一條 皇宮警察官ハ皇居離宮禁苑ノ巡邏查察諸御門ノ開閉通行人及出入物品ノ検査惡疫流行病ノ豫防火災豫防及消防ノ事ヲ掌ル

第二條 警察長ハ主殿頭ノ命ヲ承ケ前條ノ主務ヲ總管シ警部以下ヲ指揮監督ス警察次長ハ警察長ノ職務ヲ佐ケ其事故アルトキハ之ヲ代理ス

第三條 警部以下甲乙ノ二部ニ分テ非番當番ヲ設ケテ隔日ニ出勤シ輪次第一條ニ掲クル職務ニ服セシム

第四條 非番ノ内警部ハ一人警部補以下ハ其三分ノ一ヲ以テ非常員ニ充ツ

第五條 非常員ハ自宅外ニ出ツルヲ禁ス但警察長ノ認可ヲ得テ講習ニ從事スルハ此限ニアラス

○第一類○行政法○皇宮警察官服務規程

第六條 警部ハ各部二人ヲ以テ定員トシ警察長ノ命ヲ承ケ各其部内半數ノ長トナリテ警部補以下ヲ指揮監督シ第一條ニ掲クル職務及署中ノ庶務ヲ整理ス

第七條 警部補ハ警部ノ命ヲ承ケ警手ヲ指揮監督シ諸門ノ管鑰ヲ主管シ署内ノ庶務ヲ分掌シ交番所ヲ巡視シテ警手ノ規律及勤怠ヲ監察ス
警手ハ各上官ノ命ヲ承ケ第一條ニ掲クル職務ニ服ス

第八條 皇宮警察官第一條ニ掲クル職務ヲ施行スルノ際事例規ナキモノハ警部以下之ヲ警察長ニ上申シ警察長ハ之ヲ主殿頭ニ上申シ各其指揮ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第九條 皇宮警察官出勤ノ節ハ制服ヲ着シ制帽ヲ戴キ及制劔ヲ帶フヘシ
第十條 警部補ハ交代時限ノ際警手ノ姓名ヲ點呼シテ其服務及缺勤ヲ査覈シ及其職務上必要ノ携帶品ヲ點檢シ交番所ヘ派出ヲ命スヘシ

第十一條 各部ニ日記簿ヲ備ヘテ毎日執務ノ事項ヲ登錄シ毎朝警察長之ヲ檢閲シテ其緊要ヲ抜抄シ主殿頭ニ報告スヘシ
第十二條 前條服務規程ニ關スル細則ハ主殿頭ノ認可ヲ經警察長之ヲ定ム

○第二款 司法警察細則取設ノ件

▲明治十九年四月司法省訓令第壹號 警視廳、北海道廳、府縣、東京府、爾後各地方ノ便宜ニ基キ司法警察ニ關スル細則ヲ設ケントスルトキハ其地始審裁判所檢事ト協議ノ上告達スヘシ
右訓令ス

○第三十一章 標準

○第一款 街路取締規則標準

▲明治十九年六月內務省訓令第七號 廳、府、縣

乗合馬車人力車宿屋ノ營業及街路ニ於ケルヤ警察上各其取締ノ方法ヲ設ケサル可カラズ而シテ民度ノ高低土地ノ都鄙ニ由リ其間自ラ寬嚴ノ差ナキヲ得サルモノナレハ必スシモ各地畫一ノ制ヲ要セスト雖モ大體ニ於テ其則ヲ取ル所ナカルヘカラス依テ今般街路乗合馬車營業人力車及宿屋取締ノ件ニ付別冊ヲ編制シテ其標準ヲ示ス各地方ニ於テ各其標準ノ趣旨ニ從ヒ便宜増損規則ヲ設ケ本省ノ認可ヲ經テ施行ス可シ

明治十九年六月十四日

內務大臣 伯爵山縣有朋

(別冊)

○第一類 ○行政法 ○司法警察細則取設ノ件 ○街路取締規則標準 六百五十五

街路取締規則標準

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水并橋梁トス

第二條 本則ハ市街ノ道路ニ適用スヘキモノトス

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徴收スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スコトヲ得ヘキモノトス

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内

三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内

四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添へ管轄廳ニ願出允許ヲ受クヘキモノトス

一 街路ニ床店、被簀張ヲ設クル事

二 街路ニ樹木ヲ植へ又ハ街燈ヲ建ツル事

三 街路ニ柵欄、支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事

四 街路ニ莖表、碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事

五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事

六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹、木、土、石類ヲ置キ或ハ板圍、繩張、足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事

七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事

八 一時街路ニ舞臺(神佛祭典等ノ節)小屋掛(歲市草市等ノ節)及店飾ヲ設クル事

九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事

十 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事

十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事

十二 工事ノ爲メ一時通行ヲ停止スル事

十三 車馬通行停止ノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入スル事

第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ

○第一類 ○行政法 ○街路取締規則標準

- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設クヘシ其堅樋ハ街路ノ地盤ニ設クルコトヲ得ス但檐溜ノ下水ニ落ルモノハ此限ニアラス
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ塙塙ヲ設クヘキモノトス
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強靱ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ願ハセサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞・顛仆ノ虞アルモノハ速ニ修理、撤却若クハ扶植伐採スヘシ
- 第十二條 街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ
- 第十三條 運搬中ノ建物若クハ長犬ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標燈ヲ掲グヘシ
- 第十四條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシムヘシ
- 第十五條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路 樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
- 第十六條 制札・指道標・便所及塙壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲ス

ヘカラス

- 第十七條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
 - 第十八條 街路ニ商品・薪炭・荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス
 - 第十九條 街路ニ於テ荷造・木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
 - 第二十條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス
 - 第二十一條 街路ニ於テ遊樂ニ放歌シ若クハ喧噪シ高聲ヲ發シ又ハ偃臥スヘカラス
 - 第二十二條 街路ニ於テハ管轄廳ヨリ指定シタル區域ノ外露店・屋臺店ヲ出スヘカラス
 - 第二十三條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス
- 第三章 街路ノ清潔
- 第二十四條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
 - 第二十五條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除スヘシ但午前八時後日沒迄ノ降雪ハ降歇後直ニ掃除スヘシ

○第一類○行政法○街路取締規則標準

第二十六條 掃除シタル雪ハ河海下水其他妨害ト爲ラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十七條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖也午前九時前午後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十八條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第二十九條 下水ハ毎年二回以上浚渫スヘシ其浚ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ヲ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第三十條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十一條 街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵埃ヲ掃フヘカラス

第三十二條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十三條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ濫礙其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十四條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十五條 馬車及牛車ハ幅員三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限ニアラス

第二十六條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第二十七條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第二十八條 牛馬諸車ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其設ナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ

第二十九條 牛馬諸車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十一條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス

第四十二條 車馬及歩行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖

○第一類○行政法○街路取締規則標準

ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

第四十五條 郵便用 消防用ニ供スル車馬及ヒ灌水車又ハ葬送等ニ行逢
フトキハ避讓スヘシ

第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐
行スヘシ

第四十七條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ
爲スヘシ

第四十八條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ若クハ妨害物ヲ軌道ニ
置クヘカラス

第四十九條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ
牽入ルヘカラス

第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐
止スヘカラス

第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカ
ラス

第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐
ニ扱フヘカラス

第五十三條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊
戯ヲ爲サシムヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂、羽子、毛毬等ヲ弄シ若クハ
其他ノ遊戯ヲ爲スヘカラス

第五十五條 街路ニ於テ軍談、輕業其他人寄セテ爲スヘカラス

第五十六條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入
レ又ハ濫ニ車馬道ヲ歩行スヘカラス但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居
住者ニシテ牛馬及空車ヲ其地内ニ出入シ若クハ許可ヲ受ケ地盤ニ相當
ノ構造ヲ爲シテ實車ヲ出入スル者ハ此限ニアラス

○第二款 乘合馬車取締規則標準

▲明治十九年六月内務省訓令第七號續

乘合馬車取締規則標準

第一章 通則

第一條 乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許證ヲ受クヘ
シ

第二條 營業者ニ關スル願届ハ總テ預取ノ加印ヲ要ス

○第一類 ○行政法 ○乘合馬車取締規則標準

- 第三條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ
- 第四條 營業者自カラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第五條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ
- 第六條 車體及馬匹ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ラス検査ヲ受クヘシ
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
 - 一 轉居改氏名其他免許證車馬検査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
 - 二 免許證車馬検査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車馬検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
 - 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時
 - 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

- 三 馭者馬丁ヲ解備シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時
 - 第九條 免許證検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
 - 第十條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ缺クヘカラス
 - 第十一條 乗客ノ員數ハ車體馬力ニ應シ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第十二條 車馬検査證ハ検査毎ニ之ニ檢印ヲ受ケ馬匹検査證ハ其頸輪ニ結着シ車體検査證ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付スヘシ
 - 第十三條 検査證アル車馬ト雖モ第十五條第十六條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘキモノトス
 - 第十四條 營業者ハ検査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ納ムヘキモノトス
- 第二章 車體馬匹及器具
- 第十五條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 車 四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス
 - 二 車體ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス
 - 三 客座ハ清潔適當ノ裝置ヲ爲スヘキモノトス但一人ノ座席ハ巾一

○第一類○行政法○乗合馬車取締規則標準

尺二寸ヲ下ルヘカラス

四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス

五 車體前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘキモノトス

六 運轉器・心棒・發條・力革・手綱及其他ノ器具ハ堅牢・強靱ノモノヲ用フヘキモノトス

第十六條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ

第十七條 馬匹ニハ檢査證ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十八條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第十九條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強盜強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第二十條 馭者馬丁ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘキモノトス

一 馭者 帽子筒袖ツボン靴

二 馬丁 帽子又ハ笠法被股引但雨雪泥濘ノトキハ半股引及ゴム引

又ハ桐油製ノ雨具ヲ用フルモ妨ナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 證票及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見シコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懸篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第二十六條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十七條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サスシテ物品ヲ載スヘカラス

第二十八條 行車中ハ飲食又ハ喫烟ヲ爲スヘカラス

第二十九條 制止ヲ肯セス出火場其他群衆ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第三十條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

○第一類○行政法○乗合馬車取締規則標準

第三十一條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第三十二條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス

第三十三條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
- 二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十四條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ

大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十八條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十九條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第四十條 定員三分一以上ノ乗客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十一條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署、分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ

第五章 乗載制限

第四十二條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病疥癬癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者
- 二 瘋癲者、暴行者、亂醉者及乞食體ノ者

○第一類○行政法○乗合馬車取締規則標準

三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
四 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十四條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ケ車内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十六條 駐車場ニハ(乗合馬車駐車場)ト記シタル標識ヲ設クヘシ

第四十七條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四十八條 駐車場ノ地盤ハ石煉化石敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十九條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 營業組合

第五十條 馬車營業者ハ管轄廳ノ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十一條 組合ニ入ラサル者ハ馬車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十二條 各組合ハ組合保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄

應ニ納ムヘシ但適宜公債證書、驛遞局貯金預リ帳、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得

第五十三條 管轄廳ニ納メタル組合保證金ハ組合中ノ營業者及馭者馬丁營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第五十四條 組合保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ若シ之ヲ完納セサルトキハ組合營業ノ効ヲ失フモノトス

第五十五條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 組合ニハ頭取一人ヲ置クヘシ頭取ハ組合營業者中ヨリ之ヲ公選シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十八條 組合頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 組合保證金ニ關スル事

二 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事

三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事

四 營業者及馭者馬丁名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事

○第一類○行政法○乗合馬車取締規則標準

- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
 - 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
 - 七 頭取ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

- 一 年齡二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
- 二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

第六十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ頭取タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第六十一條 管轄廳ニ於テ組合頭取ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改選セシムルコトアルヘシ

○第三款 營業人力車取締規則標準

▲明治十九年六月內務省訓令第七號續
營業人力車取締規則標準

第一章 通則

- 第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ營業スルヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ届出免許證ヲ受クヘシ
- 第三條 營業者ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ要ス
- 第四條 營業者ハ輓子ノ族籍、住所、氏名、年齡ヲ管轄廳ニ届出一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ
- 第五條 營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ
- 第六條 輓子ノ鑑札ハ毎年一回管轄廳ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ
- 第七條 車體ハ毎年二回管轄廳ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造、改造又ハ買受讓受ヲ爲シタルトキハ定期ニ拘ハラヌ届出検査ヲ受クヘシ
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フシ
 - 一 轉居改氏名其他免許證車體検査證鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
 - 二 免許證車體検査證鑑札ヲ遺失、毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ管轄廳ニ届出免許證車體検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

○第一類○行政法○營業人力車取締規則標準

- 一 廢業又ハ廢車シタル時
- 二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
- 三 輓子ヲ解備シ又ハ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時
- 第十條 免許證車體檢査證、鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第十一條 車體檢査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ
- 第十二條 檢査證アル車ト雖モ第十八條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ
- 第十三條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ管轄廳ニ於テ定ムル金額ヲ管轄廳ニ納ムヘシ但適宜公債證書、驛遞局貯金預リ帳、國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第十四條 身元保證金ハ廢業又ハ營業禁止若クハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ
- 第十五條 管轄廳ニ納メタル身元保證金ハ營業者若クハ其輓子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ
- 第十六條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ其缺額ヲ納メサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
- 第十七條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付管轄廳ニ於テ定ムル手数料ヲ

納ムヘキモノトス

第二章 車體ノ構造及輓子ノ資格

- 第十八條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 一人乗ハ横巾内法ニ尺未満二人乗ハ二尺以上トス
 - 二 車體ハ無地漆塗、中張ハ革、天鵝絨、羅紗等ヲ用フヘキモノトス
 - 三 車體ニ同キ塗色ノ泥除ケヲ備フヘキモノトス
 - 四 車體ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組名及番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス
 - 五 エム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス
 - 六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス
 - 七 組名及車體ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭摺附木ヲ用意スヘキモノトス
- 第十九條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ
 - 一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者
 - 二 其土地ノ路程ヲ略知スル者
- 第二十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜、強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子スルヲ得ス其他

○第一類○行政法○營業人力車取締規則標準

ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第二十一條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘシ

一 着服ハ法被、股引、但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ

二 冠リ物ハ帽子又ハ笠

三 雨具ハゴム引又ハ桐油製

第二十二條 法被冠リ物、雨具ニハ組合及鑑札ノ番號ヲ記スヘシ

第三章 輓子就業制限

第二十三條 輓子ハ鑑札及營業人力車取締規則并賃錢表ヲ所持シ警察官

吏又ハ乘客ニ於テ見ノコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十四條 頰冠リ鉢卷其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十五條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十六條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫ニ駐車スヘカラス

第二十七條 駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス但乘客用辨ノ爲メ往來ノ

妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ナシ

第二十八條 乘客ノ指定セサル宿泊店、飲食店及其他ノ場所ニ輓入ヘカ

ラス

第二十九條 制止ヲ肯セズシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ヘカラ

ス

第三十條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲

スヘカラス

第三十一條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輜重車ニ對シテ

ハ右ニ避クヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓ス

ヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ縣ケ聲ヲ爲シ前車

ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用、消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢ストキハ

避讓スヘシ

第三十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角、橋上ヲ通過スルトキハ徐

行スヘシ且街角ヲ過シルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘ

○第一類○行政法○營業人力車取締規則標準

第三十四條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アリタルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所派出所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十條 瀟車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第四十一條 乗客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第五章 乗載制限

第四十二條 一人乗ニ二人三人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病疥癬癩病患者及乞食體ノ者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
- 三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)

二 私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)

第四十五條 公設駐車場ハ管轄廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ設クル者ハ管轄廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十六條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ駐車場ニ置ヘカラス

第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取リ出車ニ妨ケナキヲ要ス

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ圖取ヲ以テ出

○第一類○行政法○營業人力車取締規則標準

車スヘシ但客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス但暴行者及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十一條 人力車營業者ハ管轄廳ニ於テ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

第五十二條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 二 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事
- 三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事
- 四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事

六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事

七 取締人ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス
一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者

二 組合營業者ニシテ人力車十輛以上ヲ所有スル者

三 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十九條 管轄廳ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ

○第四款 宿屋取締規則標準

▲明治十九年六月内務省訓令第七號續

○第一類○行政法○宿屋取締規則標準

宿屋取締規則標準

第一章 通則

- 第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス
- 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取坪數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ
- 第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス
 - 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
 - 二 白痴瘋癲者
 - 三 強盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
 - 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者
- 第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨管轄廳ニ届出ヘシ
- 第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ
- 第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス
- 第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意ス

ヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十一條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス

第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ

第二章 旅人宿

第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ

第十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムヘシ

○第一類○行政法○宿屋取締規則標準

第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸柵ヲ設ケヘシ
 第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇以上設ケテシ
 シ但階子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ
 第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ屎尿ヲ受容スヘキ部分
 ハ石敲キ陶器等ヲ以テ構造スヘシ
 但構結上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
 第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ
 第二十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス
 但同行者ハ此限ニアラス
 第二十一條 客室ノ番號并定員ハ客室ノ出入口ニ掲示スヘシ
 第二十二條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス
 第二十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎
 ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
 宿泊人名簿書式 用紙寸
 法適宜

番號	氏名	年齢	職業	族籍	住所	相貌ノ特徴 其他事故	前夜宿 泊所	行先地	到着月 日時刻	出發月 日時刻

(甲號)

明何年 何月何日 投宿届	第 氏 名	第 族 籍	第 住 所	第 年 齡	第 職 業	第 前夜宿泊所	第 行先地	第 投宿日時
	何府縣何町村番地族籍 屋號 何某 印							

○第一類○行政法○宿屋取締規則標準

相貌特徵其他事故

(乙號)

明治何年 出發屆
何月何日 出發屆

何府縣何町村番地族籍
屋號 何某 (印)

氏名	
投宿番號	
出發日時	

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賄料、座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢并下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通

ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ一通ニ其檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第二十九條 下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第三十條 木賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スヘキモノトス

第三十一條 宿泊火滯在中外泊シタル者アルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第三十二條 宿泊人届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フヘシ

○第三十二章 鑛山

○第一款 鑛山借區證券下渡方

▲明治十八年十二月工部省告示第三拾八號

從來鑛山試掘借區人相續又ハ讓渡讓受出願之節更ニ證券下渡候處自今券

○第一類 ○行政法 ○鑛山借區證券下渡方 ○鑛山 借區稅忘納者處分方

面訂正裏書下渡スヘシ
右告示候事

○第二欸 鑛山借區稅怠納者處分方

▲明治十九年二月農商務省達第三號

府 縣

鑛山借區稅怠納者及滿一箇年以上無故休業ノ者坑業禁止ノ儀並ニ試掘期限經過ノモノ證券引揚ノ儀ハ已來伺出ニ不及其應限リ處分シ證券引揚ケ返納ノ節其事由具申スヘシ

▲明治十九年三月農商務省令第四號

鑛山借區稅怠納又ハ一箇年以上休業及ヒ試掘期限經過ノタメ證券引揚處分ヲ受ケタルモノニハ同一村内ニ於テ新ニ試掘又ハ借區ヲ許可セス

▲明治十九年四月農商務省令第五號

鑛山借區稅徵收後廢坑又ハ滅坪ニ屬スル既納稅金ハ下辰サ、ルモノトス

○第三十三章 預金

○第一欸 預金取扱手續

▲明治十八年六月大藏省告示第八拾八號

本年(五月)第十三號布告預金規則第一條第三項社寺教會々社及人民共有ニ係ル預金取扱手續左ノ通相定ム
但施行日限及利子割合ハ追テ新聞紙ヲ以テ廣告ス
右告示候事

預金取扱手續

第一條 預ケ金受渡ハ東京ハ預金局各地方ハ國庫金取扱所 (稅關國庫金取扱所ヲ除ク)ニ於テ取扱フモノトス

第二條 預ケ金ヲ分テ通常定期ノ二種トス

第三條 通常預ケ金ハ金額ヲ限ラズ拂戻期限ヲ定メサルモノトシ定期預ケ金ハ金額百圓以上期限ヲ滿六ヶ月ヨリ十八ヶ月迄トス

第四條 通常預ケ金ヲ始メテ預ケ入ルルハ申込書 (第一書式) 及印鑑二枚ヲ其預リ所東京ハ預金局各地方ハ國庫ニ差出スヘシ

第五條 預ケ主ハ預リ所ニ於テ預金通帳ヲ受取リ預ケ金ヲナス毎ニ之ヲ其預リ所ニ差出シ金員及年月日ノ記入預リ所ノ印主務者ノ調印ヲ受クヘシ

第六條 預金局へ直ニ預ケ入タル通常預ケ金ノ拂戻ヲナスハ請求書

(第二書式)ニ通帳ヲ添ヘ預金局へ差出シ其金員ヲ受取ルヘシ

○第一類 ○行政法 ○預金取扱手續

第七條 各地國庫金取扱所へ預ケ入タル預ケ金ノ拂戻ヲナスルハ請求書

(第二)ヲ其取扱所ヲ經テ預金局へ差出スヘシ

第八條 預金局ニ於テ前條拂戻請求書ヲ受ケタルハ拂戻證書(第三)ヲ

其請求人へ送達スヘシ請求人ハ該證書ノ請取欄内ニ記名調印ヲナシ取

扱所ヨリ其金員ヲ受取ルヘシ

第九條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日付ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ若シ期

日ヲ失スルハ取扱所ヲ經テ更ニ預金局へ其證書ノ書替ヲ請求スヘシ

但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

百里未滿 二十日

東京ヨリ 二百里未滿 三十日

二百里以外 四十日

第十條 通常預ケ金ノ全額ヲ拂戻スルハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻

スルハ預リ所ニ於テ其通帳ニ拂戻金員及年月日ヲ記載シ預リ所ノ印主

務者ノ調印ヲナシ之ヲ返付スヘシ

第十一條 通常預ケ金ハ預ケ入レタル月及拂戻スル月ハ其金額ニ利子ヲ付

セズ但預リ所へ預ケ入タル月ヲ以テ預ケ月トシ預金局ヨリ拂戻證書ヲ

發シタル月符ヲ交付シタル月ヲ以テ拂戻月トス

第十二條 通常預ケ金ヨリ生スル利子ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ分テ之

ヲ其元金ニ組入ルヘシ

第十三條 預ケ主ハ毎年三月九月ニ於テ通帳ヲ其預リ所ニ差出シ前條利

子ノ記入ヲ受ケヘシ

第十四條 元金ニ加ヘサル通常預ケ金ノ利子ハ預ケ金ノ全額ヲ拂戻スル

ニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第十五條 一ノ預リ所ヨリ請取タル通帳ヲ以テ他ノ預リ所ニ於テ預ケ入

レ拂戻ヲナスルヲ得ス

第十六條 預金通帳ハ預ケ金受授ノ證トス

第十七條 定期預ケ金ヲナスルハ申込書(第四)及印鑑二枚ヲ預リ所ニ差

出シ其金員ヲ預ケ入レ定期預リ金證書ヲ受取ルヘシ

第十八條 定期預ケ金ヲ受取ルルハ其預リ金證書ノ受取欄内ニ元利金額

受取ノ記入ヲナシ記名調印ノ上之ヲ引替ニ其金員ヲ受取ルヘシ

第十九條 定期預ケ金ヲ引續キ預ケ入ルルハ更ニ期限等ヲ認メタル申込

書ヲ左ノ日割ニ據リ其預リ所ニ差出シ置キ滿期ニ至リ新舊證書ノ引替

ヲナスヘシ

〔百里未滿ハ滿期ヨリ三十日前

○第一類○行政法○預金取扱手續

東京ヨリハ二百里未滿ハ滿期ヨリ四十日前

〔二百里以外ハ滿期ヨリ五十日前

第二十條 定期預ケ金ノ利子ハ預リ所ニ預リタル翌日ヨリ滿期當日迄日
歩割ヲ以テ計算スルモノトス

第二十一條 金銀貨ヲ預ケ入レ同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ハ定期預ケ
金ニ限ルモノトス

第二十二條 定期預ケ金ハ其期限内之ヲ引出スコトヲ得ス

第二十三條 預ケ金ヲ直ニ預金局ニ預ケ入ルキハ出納局へ現金ヲ納付シ
全局ノ領收證書ヲ以テ預ケ入ルモノトシ又其拂戻ヲナスキハ預金局ヨ
リ出納局仕拂切符ヲ以テ拂渡スモノトス

第二十四條 各地國庫金取扱所ニ於テ取扱ヒタル預ケ金ハ其報告ニ依リ
預金局ノ帳簿ニ登記シ全局ヨリ帳記濟ノ通知書ヲ其預ケ主へ送付スへ
シ

第二十五條 國庫金取扱所へ預ケ金ヲナシタル後左ノ期日迄ニ前條ノ通
知書到達セサルキハ預ケ主ハ其日限ノ翌日ヨリ一週間以内又到達セシ
モ金員年月日ニ相違アルキハ到達ノ翌日ヨリ一週間以内ニ其旨ヲ認タ
ル通知書ヲ預金局へ發送スへシ

百里未滿 二十日

東京ヨリ 二百里未滿 三十日

二百里以外 五十日

第二十六條 預ケ金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第二十七條 預ケ入申込書及拂戻請求書其他調印ヲ要スル書類ニハ社寺
教會々社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印
シ又二人以上ノ共同ニ係ルモノハ其總代人一名記名調印シ且共同者中
ノ一名記名加印スへシ

第二十八條 社寺教會々社ノ預ケ金ハ社寺教會々社ヲ以テ一個ノ預ケ主
ト看做シ又共同ニ係ル預ケ金ハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ主ト看做ス
へシ

第二十九條 社寺教會々社并其擔當者及共有預ケ金ノ總代人并加印者氏
名變換又ハ轉任セシキハ其屆書ヲ預リ所ニ差出スへシ

第三十條 預ケ金擔當者總代人若クハ加印者變更アルキハ後任者ノ印
鑑二枚ヲ添へ連署ノ屆書ヲ預リ所へ差出スへシ但前任者連署シ能ハサ
ルキハ證人ヲ立ツへシ

第三十一條 預金通帳定期預リ金證書又ハ拂戻證書ヲ失亡セシキ或ハ汚

○第一類○行政法○預金取扱手續

染毀傷シテ文字印章判明ナラサルハ其事由ヲ詳記セシ届書ヲ預リ所ニ差出シ再渡ノ請求ヲナスヘシ但通帳又ハ證書失亡ノ場合ニ於テ再渡ヲ受ケシ後ハ舊通帳又ハ證書ハ無効トシ爾後發見モシキハ之ヲ預リ所へ納付スヘシ

第三十二條 預金通帳又ハ定期預リ金證書ハ大藏省官員ヨリ檢査照合等ヲ要スルコアルヘシ但該官員臨檢ヲナスルハ其證據書ヲ携帶スルモノトス

(第壹書式) 用紙美濃紙

通常預ケ金申込書

何神社
何教會
何會社
何々共有

明治何年何月何日

社寺教
會々社
ナル片
ハ此例
ニ倣フ
ヘシ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
何神社(何寺)何教會(何會社)印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
擔當者

氏名印

共有預
ケ金子
ル片ハ
此例ニ
倣フヘ
シ

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
共有金總代人
氏名印
何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地
加印者
氏名印

預金局長

官氏名殿

(第貳書式) 用紙美濃紙

預ケ金拂戻請求書

何神社
何教會
何會社
何々共有

何々金(元利悉皆)
ノ内金何程)御拂戻被下度候也

明治何年何月何日

預金局長

(預ケ人氏名住所等ノ記)
藏方第一書式ニ同シ)

○第一類○行政法○預金取扱手續

官氏名殿

(第三書式)

番	號第	何	號渡
通帳番記號	ハ	第	何號先
			何神社
			(何寺)(何教會)
			(何會社)(共有金)
			總代人氏名

預金拂戻證書

一金何程也

内金何程也
金何程也

元金
利子

右金額 此證書引替ニ可相渡候也

預金局長

明治何年何月何日

官氏名 印

何府(縣)

何地

國庫金取扱所

甲 號

法三〇め

前書金額正ニ請取候也

何神社(何寺)(何教會)(社寺教會々社ハ其名)
(何會社)(何々共有金)(稱ノ下ニ其印ヲ捺ス)

總代人(擔當者)

氏 名 印

明治何年何月何日

加印者

氏 名 印

甲號拂戻證書裏面記載文

一 拂戻金ヲ請取ルルハ此證書表面請取證欄内ニ記名調印
ヲナシ國庫金取扱所へ差出シ之ヲ引替ニ拂戻金ヲ請取
ヘシ

一 此證書ヲ以テ拂戻金引替ヲナスハ表面ノ日附ヨリ左ノ
期日迄トス

百 里未滿 二十日
東京ヨリ 二百里未滿 三十日

二百里以外 四十日

一 右ノ引替期日ヲ失シタルカ又ハ此證書ヲ失亡セシハ

○第一類○行政法○預金取扱手續○一時預金取扱方

國庫金取扱所ヲ經テ預金局へ申出代リ證書ヲ請求ス

(第四書式) 用紙美濃紙

定期預ケ金申込書

一金何程也

右金員何年何月何日迄預ケ入仕度尤御成規堅ク相守可申候也

明治何年何月何日

(預ケ人氏名住所等ノ記)
載方第一書式ニ同シ

預金局長

官氏名殿

○第二款 一時預金取扱方

▲明治十九年四月司法省令丙第壹號

大審院 裁判所

十九年度以降科料罰金徵收及民事刑事其他一時預リ金取扱方左ノ通相定

一科料罰金ハ檢事ノ命令ニ據リ各納人直ニ國庫金取扱所若クハ現金仕拂

所へ預ケ入レ其預リ書ヲ以テ書記局へ上納セシメ書記局取扱主任ハ閣
令第三號歲入歲出納規則第二十七條ニ依リ納附書(大藏省令第三號
第五號書式)ニ右預リ書ヲ添更ニ國庫金取扱所若クハ現金支拂所へ納
付シ其領收ヲ證シタル納付書ヲ以テ會計主務官へ送付報告ス會計主務
官ハ大藏省令第四號歲入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スルモノトス
一民事刑事其他一時預リ金ハ納人ヨリ現金支拂所へ預ケ入レ其預リ書ヲ
以テ上納セシメ即日又ハ翌日マデニ國庫金取扱所若クハ現金支拂所へ
納付シ管守證書ヲ徵シ置ヘシ而シテ之ヲ拂戻ス時ハ會計主務官ヨリ振
出ス支拂切符ヲ以テ支拂フ可シ

一前條ノ内所持金旺金等納人ヲシテ現金仕拂所へ預ケ入レ能ハサルモノ
ハ合緘(書記會計國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ノ役員)ノ上其表面ニ金
額種類ヲ明記シ國庫金取扱所若クハ現金支拂所へ之ヲ物品トシテ預ケ
入レ金額種類ヲ明記シタル預リ證書ヲ徵シ置クヘシ而シテ之ヲ請戻ス
時ハ適宜ノ案内書ヲ發シ合緘者立會開封シ最前ノ預リ證書ト引換ニ授
受スヘシ

但本條ノ封金大審院裁判所ニ於テハ之ヲ受寄トシ帳簿ニ記載スヘシ
一前數條ニ於テ書記局元帳登記方及會計課ト授受ノ手續ハ従前ノ通

○第一類○行政法○區町村費制限○區町村費怠納者處分法 六百九十九

第三十四章 區町村費

第一款 區町村費制限

▲明治十八年八月布告第廿五號
 土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス
 但非常ノ費用ハ預知スヘカラスル天災時變ノ費用ヲ云別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若クハ水利土功會ノ評決ヲ取リ府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ
 右奉 勅旨布告候事

第二款 區町村費怠納者處分法

▲明治十八年八月布告第廿二號
 函館根室札幌三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年(五月)第拾五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ同年(七月)第二十三號布告ニ據ルベシ
 右奉 勅旨布告候事
 (參看)
 明治十七年五月第拾五號布告ハ前編第一類第六章第十款●明治十七年

七月第二拾三號布告ハ同第十一款ニ掲出ス

第三款 區町村費取調書式

▲明治十八年九月內務省達甲第二拾九號 府 縣 函館根室札幌沖
 明治十四年(十二月)當省乙第六十號達中區町村協議費取調書式左ノ通改
 正候條十七年度ヨリ改正書式ニ據リ調製翌年度末ヲ限差出スヘシ此旨相
 達候事

區町村費取調書

收入ノ部

一金若干

内 譯

金

内

金

金

金

金

管内 幾町村 區町村費決算額

地價割又ハ反別割

地價割

反別割

營業割

戶別割

第一類 行政法 區町村費取調書式

〔地價割營業割等ニ賦課シ其課額ノ全部若クハ幾分ヲ現品人夫ニ換ヘ徵收シタルキ又ハ單ニ現品人夫ヲ以テ徵收シタルキハ其代價賃錢ノ額ヲモ記載スヘシ〕

一金若干

內譯

戶長役場費

會議費

土木費

內

區町村會ニテ決議ノ分

水利土功會ニテ決議ノ分

教育費

金

內

區町村會ニテ決議ノ分

學區會ニテ決議ノ分

衛生費

救助費

金

金

災害豫防及警備費

勸業費

金

金

(右ノ外別ニ指揮シタル費目アルキハ記載スヘシ)

右ハ何年度管內區町村費取調進達候也

年月日

府知事
縣令

○第四款 區町村費送納代人

▲明治十八年六月內務省大藏省達第二拾九號

府縣

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セサルキハ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定メ土地所轄ノ戶長役場へ届置カシムヘシ

右相達候事

○第三十五章 外交

○第一款 清國朝鮮國在留日本人取締規則

▲明治十八年八月布告第貳拾六號

明治十六年(三月)第九號布告清國及朝鮮國在留日本人取締規則第一條左

○第一類 ○行政法 ○區町村費送納代人 ○清國朝鮮國在留日本人取締規則

ノ通改正ス

第一條 清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セ
ントシ若クハ風俗ヲ擾亂セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧
ヲ妨害シ若クハ風俗ヲ擾亂スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上
三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限尙相當
ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得
右奉 勅旨布告候事

○第二款 朝鮮國官民條約訂立ノ件

▲明治十八年九月外務省告示第九號

凡朝鮮國官民ニ於テ今後同國政府及各官署ノ名或ハ其委任ヲ奉シタル旨
ヲ以テ我國人民ト約條ヲ訂立スルモ該國統理衙門ヨリ蓋印スルコト非ラサ
レハ私約ト視做シ朝鮮政府及該衙門ハ代認スル能ハサル旨朝鮮曆乙酉六
月二十三日 我明治十八年八月三日 附公文ヲ以テ該國政府ヨリ通知アリタリ
右告示候事

○第三款 布哇國渡航條約

▲明治十九年五月三十一日無號勅令

朕本邦人民布哇國へ隨意渡航ノ件ニ關シ同國政府ト締結シタル渡航條約
ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

渡航條約

日本皇帝陛下ノ臣民ニシテ既ニ布哇諸島へ渡航シタル者數多アリ又本條
約ヲ以テ確認セントスル從前ノ隨意渡航方法ニ因リ向後渡航セントスル
者アルヘク又日本皇帝陛下及布哇國皇帝陛下ハ右渡航人へ布哇國ノ憲法
法律ニ遵ヒ最モ完全且有効ノ保護ヲ與ヘントノ希望アルヲ以テ右重要ノ
事件ニ付條約ヲ締結センコトヲ決定セリ因テ渡航條約ヲ協議締結セシメ
ンカ爲メ日本皇帝陛下ハ外務大臣從三位勳一等伯爵井上馨ヲ其全權委員
ニ又布哇皇帝陛下ハ其代理公使兼總領事ナイトコンマンドルヲ其全權委員
カハ勳章ロヘルトウナルカーアルウヰンヲ其全權委員ニ命シ雙方互ニ
委任ノ書ヲ示シ其誠實適當ナルヲ認メ以テ左ノ條々ヲ合議決定セリ
第一條 本條約ノ條款中既ニ布哇諸島へ渡航シタル日本皇帝陛下ノ臣民
へ適用シ得ヘキモノハ向後渡航セントスル臣民同様ニ之ヲ適用スヘキ
コトヲ雙方互ニ締結セリ

○第一類 ○行政法 ○朝鮮國官民條約訂立ノ件 ○布哇國渡航條約 七百五

第二條 本條約ノ効力ヲ存スル間其條款ニ因リ日本皇帝陛下ノ政府ハ其臣民ノ隨意ニ布哇島へ渡航スルヲ許可スヘシト雖モ其國家ノ緊急若クハ臣民ノ安寧如何ニ因リ必要ト認ムルトキハ右渡航ノ都度之ヲ禁止シ又日本政府ノ獨斷ヲ以テ右渡航ヲ一般ニ制限停止シ若クハ禁止スルコトアルヘシ但日本皇帝陛下ノ政府ハ此權利ヲ猥リニ執行スヘカラス又本條約第三條ノ許可ヲ受ケ將ニ渡航セントスル者ニ對シテハ之ヲ施行セサルヘシ

第三條 本條約ヲ以テ取極タル渡航ハ横濱及ヒ「ホノルル」ノ兩港間ニ限リ之ヲ行フヘク而シテ神奈川縣令ハ日本政府ノ名義ヲ以テ右ニ關スル諸般ノ事項ヲ處分スヘシ又布哇皇帝陛下ノ政府ニ於テハ其移住民事務局ノ特派委員ヲ任命シ之ヲ横濱ニ在留セシムヘシ但右委員ノ任命ハ日本政府ノ認可ヲ經ヘキモノトス

右委員ハ布哇諸島へ渡航スヘキ日本臣民ニ關スル諸般ノ事項ニ付神奈川縣令ト通信協議スヘク加之右渡航人ヲ搭載廻送スルニ必要ノ處分ハ總テ之ヲ施行スヘシ又若シ渡航人ヲ要スルトキハ右委員ハ其都度少クモ一箇月前其旨ヲ右縣令へ通知シ其人員及ヒ其職業ノ種類ヲ申出ツヘク而シテ右縣令ハ其通知ニ對シ猶豫ナク日本政府ノ諾否如何ヲ回答ス

ヘシ但右通知ヲ缺クカ又ハ右縣令ヨリ其請求ヲ承諾スルノ回答ナキニ於テハ前條末項ヲ適用セサルモノトス

第四條 本條約ヲ以テ取極タル渡航ハ總テ契約ニ因ルヘク又其契約ハ何年間以下ヲ期限トシ兩國政府ノ認可ヲタル式ニ從フヘシ

右契約ハ布哇政府ノ名義ヲ以テ其移住民事務局特派委員横濱ニ於テ渡航人ト締結スヘク而シテ神奈川縣令ノ認可ヲ經ヘシ

右契約繼續中布哇政府ハ渡航人ニ對シ傭主ノ義務ヲ負擔スヘキヲ以テ其諸條款ヲ正當誠實ニ履行スルノ責ニ任スヘク而シテ同政府ハ其法律ニ因リ渡航者タル日本人ヲ充分ニ保護シ且時勢ノ如何ニ係ハラス常ニ渡航人幸福安寧ヲ計ルヘシ

第五條 布哇皇帝陛下ノ政府ハ本條約ニ因リ渡航スル者ヲ上等ノ乘客瀛船ニ搭載シ之ニ相當ノ食物ヲ給與シ下等船客トナシ横濱ヨリ「ホノルル」マテ無賃ニテ渡航セシムヘシ但右渡航人ノ廻送ニ供スル瀛船ハ神奈川縣令ノ至當ト認ムルモノニ限ルヘシ

第六條 布哇國移住民事務局ト渡航者タル日本人ト締結シタル契約ノ條款ヲ相當ニ履行セシムカ爲メ及ヒ布哇國ノ法律ニ因リ右渡航人ノ權利ヲ充分ニ保護セシムカ爲メ布哇皇帝陛下ノ政府ハ右契約繼續中日本語及ヒ

英語ヲ談話通辯シ得ル監督人及ヒ通辯人ヲ應分ニ雇入ルヘク而シテ右
契約ノ事件ニ付右渡航人原告、被告、告訴人若クハ被告訴人ト成リ布哇
國法廳ニ出訴スルトキハ布哇國政府ハ右通辯人ヲシテ右渡航人ヨリ別
ニ謝金ヲ要セス其職ヲ勤メシムヘシ

第七條 布哇皇帝陛下ノ政府ハ本條約ニ因リ締結シタル契約ノ繼續中渡
航人ヲ治療セシメンカ爲メ日本醫師ヲ應分ニ傭入レ之ニ官醫ノ資格ヲ
與ヘ又之ヲシテ渡航人ノ治療ニ時々必要ト成ルヘキ地方ニ住居セシム
ヘシ

第八條 布哇皇帝陛下ノ政府ハ在布哇日本外交官及其領事ヲシテ何時タ
リトモ故障ナク自由ニ渡航者タル日本人ト接近スルヲ得セシムヘシ而
シテ右外交官及領事官ハ契約ノ誠實ニ履行セラル、ヤ否ヤヲ視察スル
ニ充分ノ便利ヲ得ルト其契約違背ノ場合ニ於テハ布哇國ノ法律及其地
方廳ノ保護ヲ請求シ得ルトノ權利アルヘシ

第九條 布哇國ニ渡航スル日本臣民ノ安寧幸福及ヒ繁榮ハ兩政府ノ等シ
ク希望スル所タリ故ニ不良不善無賴ノ日本人布哇國ニ到リ渡航人ノ中
ニ紛議騷擾ヲ醸シ又ハ之ヲ放蕩ニ誘引シ若クハ布哇政府ノ負擔トナル
ヘキ者ハ同政府ニ於テ之ヲ日本ヘ送還スルハ日本政府ノ承諾スル所ナ
リ

第十條 本條約ハ批准ヲ經ヘク而シテ其批准書ハ成ルヘク速ニ「ホノル
ル」府ニ於テ交換スヘシ

第十一條 本條約ハ批准交換ノ日ヨリ直ニ執行シ五年間有効ノモノタル
ヘシ而シテ其後ト雖モ此條約國ノ一方ニ於テ六箇月前ノ通知ヲ以テ之
ヲ廢止セントスルノ意ヲ表スルニ非サレハ尙ホ其効力ヲ存スルモノト
ス

右證據トシテ雙方ノ全權委員和文及ヒ英文ヲ以テ本條約ヲ調製シ茲ニ記
名調印スルモノナリ
明治十九年一月二十八日西曆千八百八十六年一月二十八日於東京

井 上 馨
アールズグヱリユー・アールウ・ウ・ン

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝御名明治十九年即チ
西曆一千八百八十六年一月二十八日東京ニ於テ日本國人民布哇國ヘ隨意
出稼ノ件雙方全權委員ノ記名シタル條約書ヲ朕親ラ閣覽點檢セシニ能ク
朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百四十六年明治十九年一月二十九日東京帝宮ニ

於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム
御名 國璽

奉勅

外務大臣伯爵井上馨

第三十六章 雜則

第一款 地方廳委任條件

▲明治十八年八月大藏省達第四拾九號

府 縣

函館縣 沖繩縣 札幌縣 根室縣 除ク

民有地々價租額ニ關スル處分左ニ掲クルモノハ今後委任候條例規ニ準據シ處分濟ノ後左ノ雛形ニ倣ヒ取調届出ヘシ

開墾地 餘下年期明及年期ヲ要セサルモノ

荒地 免租 年期明 低價

地目變換

官有地拂下及無代下渡

右四項ハ一回ノ調査一町村內其段別一類地壹町步未滿二類地五町步

未滿ノ地價租額ヲ査定スル

免租地組換及畦畔廢除有租地成

改租以前ノ開墾地 餘下續年期有租地成

右二項ハ段別ノ多寡ニ係ハラス地價租額ヲ査定スル
畦畔新設

右ハ步數ノ多寡ニ係ハラス其地價租額ヲ除却スル

地租増減ニ係ル伺届ハ左ノ期限表ニ據リ進達スヘシ

但該期限ニ伺届ノ事項ナキハ其旨主稅局ヘ報道スヘシ

右相達候事

▲明治十九年三月內務省令第壹號

府 縣

沖繩縣 除ク

自今左ニ掲ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム

一 恤救規則心得第八條一家數人救助ノ事

一 國縣道道幅取擴ノ事

一 社寺由緒アル地所建物處分ノ事

一 社寺創立再興等設建延期ノ事

一 地租改正以前ヨリ人民ノ埋葬シ來リタル官有墓地ヲ民有墓地ニ組替ル事

一 耕宅地ニ非サル民有地ヲ斃牛馬捨場ニ撰定シ及之ヲ廢スル事

一 廢合神社跡地ヲ明治八年乙第百十三號達ニ準シ處分スル事

○第一類 ○行政法 ○地方廳委任條件

- 一 民設ノ用惡水路堤塘溜池井溝ヲ官有地ニ組換並ニ明治九年乙第八十一號達同十六年乙第四十五號達ニ依リ代地ヲ下ケ渡ス事
- 一 官有市街地ヲ明治十三年太政官第六號達ニ依リ公立小學校公立中學校公立專門學校敷地ニ附與スル事
- 一 人民ノ願ニ依リ土地建物ノ寄附ヲ許可シ其土地ヲ官有ニ組替ル事
- 一 官有ノ湖沼池等埋立ノ事
- 但工事ノ一町歩以上ニ涉ルモノハ此限ニアラス
- 一 素地相當代價ノ既定セル開墾地ヲ拂下ル事
- 但河川ノ寄洲川沿ニ係ル地所ハ此限ニアラス
- 一 土石砂利ヲ掘取及拂下ル事
- 但修路治水ニ害アルヘキモノハ此限ニアラス
- 一 地方稅ノ經濟ニ於テ土地建物ヲ買上及拂下ル事
- 一 阿片賣買特許藥舖鑑札下付ノ事
- 一 阿片製造鑑札下付ノ事
- 一 劇藥配伍ノ賣藥許否ノ事
- 一 避病院開設ノ事
- 一 檢疫委員設置ノ事

- 一 養魚其他殖産ノ爲メ官有池沼ヲ貸渡ス事
- 一 社寺境内一時貸下ノ事

一 府縣官舎ノ内官宅警察署郡區役所等建築ノ事

▲明治十九年六月農商務省訓令第八條

府 縣

自今左記ノ條件稟請ヲ要セス處分後報告スヘシ

但山林ニ關スル事項ハ沖繩縣ヲ除ク

- 一 官林貸渡繼年期ノ事
- 二 官林ノ手入又ハ野火豫防ノ爲メ一時雜草荆棘ヲ拂下ル事
- 三 官林へ樹木栽植ノ事
- 四 官有竹林改良ノ爲メ五段歩以内ヲ人民へ保管セシムル事
- 五 官林ノ慣行アルモニ於テ下草落葉及葎蔭拂下ノ事
- 六 官林へ公益ノ爲メ樹木獻植ノ事
- 以上六項大林區署設置アル府縣ハ此限ニアラス
- 七 官有ノ山林原野へ公益ノ爲メ樹木獻植ノ事
- 八 官有ノ山林原野ヲ官林へ編入ノ事
- 九 官有ノ山林原野ニ於テ素地相當代價既定ノ開墾地拂下ノ事
- 十 官有ノ山林原野ニ於テ土石掘取及拂下ノ事

○第一類○行政法○地方廳委任條件

右處分後本年(四月)當省訓令第一號ニ據リ報告スヘシ
十一日本坑法第二十四款坑業禁止ノ事
十二砂鐵ノ爐稼願許可ノ事
十三砂金銀鐵等採取人及爐稼人相續加除名並讓受渡願ノ事
右處分後十五日以内ニ報告スヘシ

○第二款 遞信管理局管轄區域

▲明治十九年四月勅令第二拾三號

朕遞信管理局名稱位置及管轄區域ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十三號

遞信管理局名稱位置及管轄區域

東京遞信管理局

位置 武藏國 東京

管轄區域 東京府 神奈川縣 靜岡縣 山梨縣 埼玉縣

千葉縣 茨城縣 群馬縣 栃木縣

大阪遞信管理局

位置 攝津國 大阪

管轄區域 大阪府 京都府 兵庫縣 滋賀縣 和歌山縣

新瀉遞信管理局

位置 越後國 新瀉

管轄區域 新瀉縣

函館遞信管理局

位置 渡島國 函館

管轄區域 北海道 青森縣

名古屋遞信管理局

位置 尾張國 名古屋

管轄區域 愛知縣 三重縣 岐阜縣

岡山遞信管理局

位置 備前國 岡山

管轄區域 岡山縣 廣島縣

赤間關遞信管理局

位置 長門國 赤間關

管轄區域 山口縣 福岡縣 大分縣 長崎縣 佐賀縣

○第一類 ○行政法 ○遞信管理局管轄區域

松江遞信管理局

位置 出雲國 松江

管轄區域 鳥取縣 島根縣

熊本遞信管理局

位置 肥後國 熊本

管轄區域 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

丸龜遞信管理局

位置 讚岐國 丸龜

管轄區域 愛媛縣 德島縣 高知縣

金澤遞信管理局

位置 加賀國 金澤

管轄區域 石川縣 福井縣 富山縣

長野遞信管理局

位置 信濃國 長野

管轄區域 長野縣

福島遞信管理局

位置 岩代國 福島

管轄區域 福島縣

仙臺遞信管理局

位置 陸前國 仙臺

管轄區域 宮城縣 岩手縣

山形遞信管理局

位置 羽前國 山形

管轄區域 山形縣 秋田縣

▲明治十九年四月遞信省令第九號

遞信管理區ニ郵便區郵便局ノ郵便物集配受持町村ヲ云フヲ置シ其名稱ハ郵便局名ニ同シ

▲明治十九年四月遞信省令第拾號

大阪赤間關ニ驛遞局第四部貯金課出張所ヲ置キ貯金出納及計算ノ事務ヲ

分掌セシム

但各出張所受持區域ハ左ノ通

大阪貯金課出張所受持區域

大阪遞信管理區

岡山遞信管理區

松江遞信管理區

○第一類○行政法○遞信管理局管轄區域

九縣遞信管理區

金澤遞信管理區

赤間關貯金課出張所受持區域

赤間關遞信管理區

熊本遞信管理區

▲明治十九年五月遞信省告示第二拾八號

當分ノ内長野遞信管理區ハ東京遞信管理局ニ於テ併管セシム
右告示ス

○第三款 造幣印刷鑛山三局分掌規程

▲明治十九年四月大藏省令第拾八號

造幣局印刷局三池鑛山局佐渡鑛山局及ヒ生野鑛山局ノ分掌規程ヲ定ムル
コト左ノ如シ

造幣局分掌規程

第一條 總務部ハ内外ノ諸公文書類諸報告ノ取扱監察ノ事務職員ノ取扱
及ヒ諸雜件調理ノ事ヲ掌ル

第二條 會計部ハ營業費ノ豫算決算及ヒ其出納各工場諸官舎等所屬建物

ノ營繕ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 第一部ハ各地金及ヒ成貨ノ出納計算等ノ事ヲ掌ル

第四條 第二部ハ金銀貨幣ノ鑄造ニ屬スル工事ヲ掌ル

第五條 第三部ハ銅貨幣ノ鑄造ニ屬スル工事ヲ掌ル

第六條 第四部ハ各種極印ノ彫刻鍛冶鑄鐵銅工等及ヒ瓦斯骸炭製造ノ事
ヲ掌ル

第七條 第五部ハ精製分析ニ屬スル工事ヲ掌ル

第八條 大藏省構内ニ造幣局出張所ヲ置キ各地金ノ受入及ヒ代リ貨幣拂
渡ノ手續ヲ分掌セシム

第九條 造幣局出張所ノ事務規程ハ別ニ定ムル所ニ依ラシム

印刷局分掌規程

第一條 總務部ハ諸公文書類ノ取扱各部業務ノ監督帳簿金錢物品ノ檢查
職員ノ取扱及ヒ全體ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第二條 會計部ハ營業費ノ豫算決算及ヒ其出納事務諸物品ノ購買發賣并
ニ諸機械ノ製作修補所屬建物ノ營繕ニ關スル事ヲ掌ル

第三條 印刷部ハ彫刻活版銅版石版其他印刷製肉製本ニ關スル一切ノ工
事ヲ掌ル

○第一類 ○行政法 ○造幣印刷鑛山三局分掌規程

第四條 抄紙部ハ抄紙ニ關スル一切ノ工事ヲ掌ル

三池礦山局分掌規程

第一條 工業課ハ採炭疏水通氣及ヒ錐鑿等ニ關スル一切ノ工事ヲ掌ル

第二條 運輸課ハ所屬ノ船舶ヲ管理シ内外各地方ヘ石炭輸送ノ事ヲ掌ル

第三條 營繕課ハ坑外車道棧橋舍屋溝渠ノ修築其他諸建物ノ營繕ニ關ス

ル事項ヲ掌ル

第四條 製作課ハ各科需用ノ器具及ヒ其他製造ノ事業ヲ掌ル

第五條 庶務課ハ諸公文書職員ノ取扱其他一切雜務ノ調理經費ノ豫算決

算及ヒ其出納并ニ石炭ノ販賣諸需用物品ノ購買等ヲ掌ル

佐渡礦山局分掌規程

第一條 礦場課ハ鑽石ノ採掘及ヒ精撰等ノ事ヲ掌ル

第二條 製礦課ハ鑽石ノ製煉及ヒ精製等ノ事ヲ掌ル

第三條 分析課ハ各礦物試驗分析ノ事ヲ掌ル

第四條 機械課ハ各工場諸機械ノ新製及ヒ修補等ノ事ヲ掌ル

第五條 庶務課ハ諸公文及ヒ職員ノ取扱諸取締其他一切雜務ノ調理ヲ掌

ル

第六條 會計課ハ經費ノ豫算決算及ヒ其出納帳記産出金銀銅ノ價格ニ關

スル計算并ニ需用物品ノ購買管守等ヲ掌ル

第七條 營繕課ハ各工場及ヒ諸建物ニ關スル營繕修理其他土木ノ事等ヲ

掌ル

生野礦山局分掌規程

第一條 礦場課ハ鑽石ノ採掘及ヒ精撰等ノ事ヲ掌ル

第二條 製礦課ハ鑽石ノ製煉及ヒ精製等ノ事ヲ掌ル

第三條 分析課ハ各礦物試驗分析ノ事ヲ掌ル

第四條 機械課ハ各工場諸機械ノ新製及ヒ修補等ノ事ヲ掌ル

第五條 庶務課ハ諸公文及ヒ職員ノ取扱諸取締其他一切雜務ノ調理ヲ掌

ル

第六條 會計課ハ經費ノ豫算決算及ヒ其出納帳記産出金銀銅ノ價格ニ關

スル計算並ニ需用物品ノ購買管守等ヲ掌ル

第七條 營繕課ハ各工場及ヒ諸建物ニ關スル營繕修理其他土木ノ事等ヲ

掌ル

○第四款 租稅檢查員派出方準則

▲明治十八年八月大藏省達第五拾六號

府 縣

○第一類○行政法○租稅檢查員派出方準則

租稅檢査員派出方準則左ノ通相定ム
右相達候事

租稅檢査員派出方準則

第一條 地勢ノ便否營業者ノ多寡等ヲ酌量シ管内ヲ數部ニ區畫シ之ヲ租稅檢査區ト爲スヘシ

第二條 租稅檢査區ニハ檢稅主務員若干名ヲ派遣シ其區内ノ租稅檢査ニ從事セシムヘシ

第三條 租稅檢査區ニハ便利ノ地ヲ擇ヒ租稅檢査員派出所ヲ設クヘシ

第四條 檢稅主務員中監督員ヲ命シ租稅檢査區若干ヲ担当トシ檢査ノ事務ヲ監督セシムヘシ

第五條 監督員檢査員ハ收稅尉ヲ以テ之ニ充ツヘシ
但府縣ノ都合ニヨリ準判任御用掛ヲ加フルコトヲ得

○第五款 國稅收納事務檢査規程

▲明治十八年八月大藏省達第六拾壹號 府縣 沖繩縣函館縣札幌縣 郡區役所國稅收納事務檢査規程左ノ通相定ム

右相達候事

國稅收納事務檢査規程

第一條 郡區役所ノ國稅收納事務ハ收稅課員ヲシテ檢査セシムヘシ

第二條 檢査ハ年ニ二回以内事務ノ緩急ニ應シ隨時之ヲ爲スヘシ

第三條 檢査スヘキ要領左ノ如シ

一 國稅徵收及送納ノ事

一 國稅不納ノ狀況及處分ノ適否

一 國稅收納ニ關スル帳簿ノ整否

一 國稅收納ニ關スル諸申報ノ整否

第四條 檢査ノ細則ハ府縣ニ於テ適宜之ヲ定メ主稅局ニ報告スヘシ

○第六款 府縣稅務監査規則

▲明治十九年四月大藏省令第拾三號

府縣稅務監査規則左ノ通相定ム

府縣稅務監査規則

第一條 府縣ノ稅務ハ時々主稅官ヲ派出シテ之ヲ監査セシム

第二條 主稅官ハ左ノ件々ニ就キ各府縣ノ稅務ヲ監査スルモノトス

各種内國稅

○第一類 ○行政法 ○國稅收納事務檢査規程 ○府縣稅務監査規則七百二十三

印紙類賣捌方及取扱方

検査區畫

検査員配置計畫及検査事務取扱方

内國稅徵收費支辨ノ實況

稅務諸帳簿ノ整否

收稅事務取扱ノ得失

第三條 主稅官ハ府縣ノ稅務ニ關シ意見アルトキハ直チニ府知事縣令ニ協議ヲ爲スコトヲ得

第四條 監查上時宜ニ依リ郡區役所及ヒ戶長役場ニ就キ稅務ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第五條 府縣廳ニ於テ協議ヲ遂ケタル事項及ヒ監查上ノ實況ハ之ヲ大藏大臣ニ具申スルモノトス

○第七款 判事登用規則

官省院廳府縣

▲明治十八年十一月達第六拾貳號

明治十七年(十二月)第百貳號達判事登用規則第九條ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 法學士ニシテ檢事并ニ判事補檢事補ノ職ヲ奉スル者

右相達候事

▲明治十九年一月閣令第五號

省院廳府縣

明治十七年(十二月)第百貳號達判事登用規則第二條及ヒ第九條中左ノ通改正ス

奉 勅

第二條 一項 法學士代言人及ヒ試驗及第者ヲ登用スルトキハ先ツ判

事試補ヲ命シ一箇年以上始審裁判所ニ試用シ判事定員ノ缺アルニ隨

ヒ其本官ニ任スルモノトス

同 條 三項 判事試補服務一箇年以上ノ者ハ檢事ニ登用スルコトア

ルヘシ

第九條 左ニ掲グル者ハ試驗及ヒ判事試補ノ例ヲ用ヒス補缺ノ爲メ直

ニ判事ニ任スルコトアルヘシ

○第八款 書類保存規程

大審院 裁判所

▲明治十八年十月司法省達第貳拾壹號

大審院并裁判所ノ書類保存規程左ノ通相達候條此旨相達候事

書類保存規程

○第一類○行政法○判事登用規則○書類保存規程

- 第一條 勸解書類ノ保存期限ハ三年トス
- 第二條 動産其他ノ民事訴訟書類ノ保存期限ハ七年トス
- 第三條 不動産并人事ニ關スル民事訴訟書類ノ保存期限ハ二十年トス但土地經界及水利ニ關スル必要ナル繪圖面等ハ永久之ヲ保存ス可シ
- 第四條 違警罪訴訟書類ノ保存期限ハ一年トス
- 第五條 輕罪訴訟書類ノ保存期限ハ六年トス
- 第六條 重罪訴訟書類ノ保存期限ハ二十年トス
- 第七條 第一條ノ期限ハ勸解落着ノ日ヨリ第二條以下ノ期限ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス
- 第八條 刑事關席裁判ニ關スル訴訟書類ハ其期滿免除ニ至ルヲ以テ期限トス但期滿免除ニ至ラサル前其言渡確定シタル者ハ第四條以下ノ規則ニ從フ
- 第九條 被告人逃走等ニ係リ公判ニ付スル能ハサル事件ノ訴訟書類ハ第四條第五條第六條ニ定メタル期限間之ヲ保存ス可シ但其期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス
- 第十條 民事刑事ノ言渡書及命令書ハ永久之ヲ保存ス可シ
- 第十一條 受付遞付并雜事ニ關スル簿冊類ノ保存期限ハ其記載ヲ終リタ

- ル日ヨリ二年トシ訴訟件名錄ハ永久之ヲ保存ス可シ
- 第十二條 表記ニ關スル簿冊類ノ保存期限ハ其製表ヲ終リタル日ヨリ三年トス但表記及已決犯罪表ハ永久之ヲ保存ス可シ
- 第十三條 書記局ニ於テ管掌スル金錢物品ニ關スル簿冊類ノ保存期限ハ其事柄ノ終リタル日ヨリ十年トス
- 第十四條 公文記錄敎典復權及處務手續其他決議ニ關スル簿冊ノ類ハ永久之ヲ保存ス可シ
- 第十五條 前數條ニ定ムル所ノ保存期限ヲ經過セシ書類ハ書記局ニ於テ審査シ目錄ヲ作り檢事ノ職務ニ關スル書類ハ檢事其他ノ書類ハ大審院長又ハ裁判所長ノ檢閱ヲ經タル後細斷シテ之ヲ廢棄ス可シ但訴訟書類ノ副本ハ其正本現存セサル場合ヲ除クノ外保存期限ニ拘ハラズ裁判確定ノ後直チニ之ヲ細斷シテ廢棄スヘシ
- 第十六條 此規則ハ大審院ハ其創設控訴裁判所ハ上等裁判所ト始審裁判所ハ地方裁判所ト稱セシ以後ノ書類ニ適用ス可キ者トス

○第九款 捕魚昆布採取規則

▲明治十九年四月外務省告示第壹號

○第一類○行政法○捕魚昆布採取規則

露西亞國沿海州ノ海岸ニ於テ本年ヨリ來ル明治二十一年迄左ノ規則ニ依リ捕魚并ニ昆布採收ヲ許ス旨該州軍務縣令ヨリ本邦駐劄露國臨時代理公使スベイエル氏へ通報アリシ趣同氏ヨリ通知アリタリ
右告示ス

露國沿海州ノ海岸ニ於テ捕魚并ニ昆布採收ノ爲メ千八百八十五年間施行規則

第一條 露國人並ニ外國人等ハ地方官ノ許可ヲ得テ此ノ規則ニ基ツキ千八百八十五年中沿海州ノ禁制ナキ海ニ於テ捕魚并ニ昆布採收ヲ營ムヲ允ルス

第二條 魚ヲ捕ヘ或ハ昆布ヲ採リ或ハ又之ヲ買集スルコトヲ營ムヲ望ム輩ハ其營業所最近ノ港ニ在ル地方官ニ願ヒ出テ其營業權ヲ得ルノ證ヲ受取ルヲ要スル事 但河中ニテ捕魚スルハ國法ニ基ツキ河ヲ横塞セズ魚ノリ河口ニ至ルマテ魚ノ通行ヲ妨ケサルコトヲ務ムヘシ

第三條 漁業及ヒ買集ヲ終フルニ當リ魚并ニ昆布ハ皆檢視ヲ受ケ且ツ浦潮港ニコテヘウスク府、ペトロバウロウスク、ギシギン、チホーツスク、デ、スカトル港、チリガ港、ボシエツト港ノ官金庫ニ納稅スヘシ 各船ハ此諸港ノ内一港ニハ必ス寄航シ調度物品ヲ地方警察官或ハ其代官ニ出シ

検査ヲ受ケ魚「ブード」ニ付金貨五「コペーキ」並ニ昆布「ブード」ニ付紙幣五「コペーキ」宛ノ稅ヲ外國人等ハ上納スルモノトス 露國人等モ其調品ヲ外國船ニ積ミ入レ外國ニ輸出スル節ハ右同様ノ稅ヲ納ムヘシ 露國人ニシテ露國船ヲ以テ魚ヲ外國へ輸出スルモノハ「ブード」ニ付紙幣五「コペーキ」ヲ納稅スヘシ 但シ外國ニ輸出スル爲メニ非ラスシテ帝國內需用ノ爲メニ物品ヲ調度スル輩ハ全ク納稅ニ及ハス 若シ納稅ノ爲メ金貨ナキ時ハ時相場ヲ以テ金貨ニ代ル丈ケノ紙幣ヲ納ムヘシ

第四條 官金庫警察官及ヒ諸長官ヨリ納稅濟ミノ證券面ニハ納稅主魚或ハ昆布何「ブード」何場所ニテ捕獲或ハ採收何船ニ此物品ヲ積入レ何方へ出帆ノコトヲ細記スヘシ 官金庫ニ直チニ納稅スル營業人等ハ調度品納金未濟證ヲ差出スヘシ 并ニ買集品ヲ檢視セシモノヨリ受取リタル

第五條 第三條ニ明示セシ諸港ノ一ニ納稅ヲ避ケン爲メ故意ヲ以テ寄航セサル船ハ海上ハ勿論外國ノ諸港ニ在ツテハ露國領事ヲ以テ之ヲ追搜シ其輸出品ニ二倍ノ稅ヲ追徵セシム且ツ此船ハ我諸港ニ貿易或ハ營業ノ目的ニテ寄航スルヲ永ク嚴禁スル事

○第一類○行政法○捕魚昆布採收規則

第六條 露國領内ノ海岸ニ於テ現ニ捕魚并ニ昆布採收ヲ營ム清國人・朝鮮人等ハ我國内需用或ハ外國需用ノ爲メニ調度スルノ差別ナク皆魚一「ブード」ニ付金貨五「コペーキ」昆布ハ紙幣五「コペーキ」宛地方警察官或ハ軍務官ニ納税スルヲ要スル事

第七條 浦潮港・ナリガ港・ボシエツト港等ニ來ル近海運漕船ニシテ魚或ハ昆布ヲ積込ミタルモノハ即日納税濟ノ證券ヲ地方官ニ呈シ其檢印ヲ受クヘシ若シ納税未濟ノモノハ即時之ヲ納ム可キ事

第八條 魚或ハ昆布ノ税ヲ納メス或ハ積荷ヨリ少ナキ税ヲ納メシ船主アルキハ其積荷ヲ沒收シ之ヲ競賣シ且ツ其賣拂金ハ官ノ歳入ニ加入スル事

第九條 納税濟ノ魚并ニ昆布ヲ輸出スルハ海陸運送ノ自由ヲ得ヘキ事

第十條 沿海州ノ海岸ニテ獲タル魚或ハ昆布ヨリ收入セシ金ハ何所ノ論ナク皆ニコラエウネク府并ニ浦潮港ノ官金庫ニ加入シ沿海州軍務縣令ノ準備金トナス事

第十一條 魚或ハ昆布ヲ檢視シ其税ヲ收ムルノ命ヲ受ケタル警察官及ヒ地方官等ハ毎月事務ノ現況ト外國輸出ノ魚並ニ昆布ノ數量ヲ軍務縣令ニ明細具狀シ且ツ收入セシ税金ヲハ六ロツカ府官金庫ニ送り縣令ノ准

備金中ニ加入ス可キ事

沿海州軍務縣令

參謀本部陸軍少將マルミン手記

部長 バウロウスキー手記

○第十款 官報ニ關スル條件

▲明治十八年十二月閣令第八拾壹號

省院廳府縣

官報ノ報告ヲ敏速精確ナラシムル爲メ其報告主任官ヲ精選シ常ニ官報局ト氣脈ヲ相通シ事務ノ利便ヲ計ルヘシ

北海道廳府縣

▲明治十九年六月遞信省令第拾壹號

官報賣捌代價送納ノ方法左ノ通相定ム
一各官廳ニ於テ購讀スル官報代價ハ仕拂切符又ハ送金手形ヲ以テ東京郵便局ヘ送付スルモノトス

一各官廳ニ於テ官報購讀義務者ヨリ前納スル該代價ハ所在國庫金取扱所ヘ預ケ入レ其預リ證書ヲ東京郵便局ヘ送付スルモノトス

一前項官報購讀義務者ヨリ納付スルノ順序ハ各廳ニ於テ便宜徵收ノ方法ヲ定ムヘシ

○第一類○行政法○官報ニ關スル條件

▲明治十八年八月大藏省令第五拾七號 府縣東京大坂兩府及沖繩札
官報購讀ノ義務ヲ有スル官衙及本人ヨリ前納スル官報代價ハ自今納金證
書ヲ添ヘ國庫金取扱所ヘ預ケ入レ該證書ヘ預リノ證印ヲ得テ驛遞局ヘ送
付スヘシ
右相達候事

▲明治十八年八月布達第拾八號
銀行會社等ノ報告類ニシテ法律規則若シハ其定款ニ因リ廣告ヲ要スルモ
ノハ自今官報ニ掲載ヲ請フコトヲ得但其取扱手續ハ驛遞總官ヨリ公告ス
ヘシ
右布達候事

▲明治十八年十二月達第七拾七號 省院廳府縣
明治十六年(五月)太政官第貳拾貳號達中官報定價ノ項ニ左ノ但書ヲ追加
但一箇月分定價金七拾五錢

▲明治十九年六月閣令第拾七號 各官廳
▲明治十六年(五月)太政官第貳拾貳號達第四條及明治十八年(五月)第拾九
號達同但書中驛遞局ヲ官報局ト改ム

▲明治十九年六月閣令第拾八號

明治十八年(八月)太政官第拾八號布達中驛遞總官ヲ官報局長ト改ム

○第十一欸 河港道路橋梁其他
工費金高帳書式

▲明治十九年二月內務省達甲第二號 府縣

明治十四年(九月)當省乙第四十七號達河港道路橋梁其他修築工費總計帳
及金高帳書式ノ儀別冊ノ通改正ス明治十八年度ヨリ右ニ照準調製シ翌年
度九月三十日迄ニ當省ヘ差出スヘシ
右相達ス

(別冊)

書式 用紙美濃野紙 △印ハ朱書
圓位ハ朱線

明治何年度土木工費總計表

新築變更之部

府縣名

名	稱	地方稅	町村費	篤志金	計

○第一類○行政法○河港道路橋梁其他工費金高帳書式

河川工費

某川流域
幹川
支某川
派某川

(國庫補助金アルモノハ其員數ヲ朱書ニテ地方稅ノ欄内ニ列記ス)

七百三十四

港灣工費

某
合 計
某 港 計

道路工費

國道
第何號線

△計

△計	國道	某	合	△計	某	△計	某川流域	幹川	(國庫補助金アルモノハ其員數ヲ朱書ニテ地方稅ノ欄内ニ列記ス)
	第何號線	計	計		川		派某川	支某川	

橋梁工費

國道橋梁
第何號線

縣道橋梁
第何號線

△計

合 計

△計	縣道	國道	合	△計	縣道	合
	何所ヨリ何所ニ達スル路線	第何號線	計	何所ヨリ何所ニ達スル路線	第何號線	計

○第一類○行政法○河港道路橋梁其他工費金高帳書式 七百三十五

小以合計金 修繕之部

總計	小以合計金						名	稱	地方稅	町村費	篤志金	計
	合	里	里	沙	堀	堀	名	稱	地方稅	町村費	篤志金	計
金	里	道	橋	梁	道	里	道	市街道路	國縣道	除ノ外此部	入ル	計
右之通候也	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀
年月日	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀
府知事縣令名印	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀	堀

○第十二款 巡查看守給助例

△明治十九年二月達甲第七號
 △明治十五年(七月)第四拾壹號公達巡查看守給助例ノ儀未ク施行セサル地
 方モ有之候處明治二十年度ヨリ施行スヘシ

○第十三款 巡查看守休暇概則

△明治十八年七月三十日內務省達番外
 巡查看守休暇概則左ノ通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届出此旨相達
 候事

巡查看守休暇概則

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消候事
 第一條 巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許サ、ルヘキ
 モノナレハ其勤務上差支ナキニ於テハ皆勤ノ者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ
 休暇ヲ與ルコトヲ得
 第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ
 休暇日數

○第一類○行政法○巡查看守給助例○巡查看守休暇概則 七百三十七

一ヶ年間皆勤ノ者 三週間
 半ヶ年間皆勤ノ者 壹週間
 第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ欠勤ハ欠勤日數ニ算入セス
 第四條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス

○第十四款 乘馬飼養令

▲明治十八年六月達第貳拾八號 官省院廳府縣

明治十七年(八月)第六十六號達乘馬飼養令中左ノ通加除候條此旨相達候事

第一條 文武官ノ下(海軍武官)ノ七字ヲ加ヘ但書(海軍武官ハ海上勤務奉職中ノ者ヲ除ク)ノ十七字ヲ削ル
 第七條 但書(起算)ノ下(シ又海軍武官ノ海上勤務ヨリ陸上勤務ニ轉シタル者ハ其轉職ノ日ヨリ起算)ノ三十三字ヲ削ル

○第十五款 軍馬輸送ノ節保護方

▲明治十八年六月陸軍省達第貳拾六號 府縣函館津細札幌根室ノ四縣ヲ除ク
 軍馬輸送ノ途中發病等ノ節ハ其地方ニ於テ左ノ各項ニ據リ取扱可申此旨

相達候事

第一項 軍馬輸送ノ途中ニ於テ馬匹疾病若クハ傷痍ヲ生シ歩行ニ堪ヘ難クシテ其取締ヨリ治療日數ヲ豫定シ其地戶長ハ區長以下倣之ニ預ケ方ヲ協議スルトキハ戶長ハ之ヲ確實ナル者ニ預ケ預定期日ニ至レハ(期日内)雖トモ全快スルトキハ直ニ出發セシム(馬夫ヲ雇ヒ直ニ鎮臺ニ送致セシムル)コトヲ保シ取締ニ左式ノ受書ヲ出ス可シ
 但馬匹預ケ中ハ飼料并ニ手當トシテ一日金三拾五錢以内ヲ給シ其出發後ハ馬匹旅籠料金三拾錢雜費金九錢其他馬夫給料及ヒ旅費トシテ一日金七拾錢以内(里程六里乃至八里詰トス)ヲ以テ鎮臺到着ノ日迄之ヲ給シ歸路ニ別ニ給スルコトナシ

受書式

軍馬預リ受書

一馬 名
 一 寸 尺
 一 毛 色
 一 年 齡

右何症ニ罹リ當町(村)ニ於テ何週間治療ヲ加ヘ全快ノ見込ニ依リ御

○第一類○行政法○乘馬飼養令○軍馬輸送ノ節保護方

預夕相成候ニ付テハ快氣ノ上何鎮臺ニ差立方取計可申右相違無之候也

年號月日 府(縣)郡(區)町(村)戸長 戸長アラサ
姓 地ハ區長 名 印

何鎮臺

官姓名殿

第二項 前條ノ馬匹豫定期日ニ至リ尙ホ歩行ニ堪ヘ難キトキハ戸長ハ更ニ治療期日ヲ豫定シ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ其旨鎮臺ニ申出可シ又出發後途中ニ於テ再ヒ發病歩行シ難キトキハ馬夫ヨリ其地戸長ニ申出シメ其地戸長ハ速ニ獸醫ヲシテ治療ヲ加ヘシメ其旨電報ヲ以テ鎮臺ニ申出指揮ヲ受ク可シ

但其治療滞在中ハ馬匹旅籠料及ヒ雜費ノ外尙ホ馬夫給料手當トシテ一日金四拾錢ヲ給ス可シ

第三項 馬匹ノ病症到底廢疾ニ歸ス可キ者ト獸醫診斷シ確實ナルトキハ取締出發後ハ其地戸長ヨリ電報ヲ以テ之ヲ鎮臺ニ具申シ賣却又ハ撲殺ノ處分ヲ請フ可シ若シ急症ニシテ斃死セシトキハ獸醫ヲシテ其病因ヲ診斷セシメ賣却又ハ埋沒シ其事由ヲ鎮臺ニ具申ス可シ

但斃死セシ馬匹ハ成ル可ク之ヲ賣却シ其代價ニ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ上納ス可シ若シ傳染病ニテ賣却ス可カラサル者又ハ其他ノ事故ニテ買取者ナキトキハ一頭ニ付金三圓以内ヲ以テ埋沒又ハ燒棄ス可シ

第四項 病馬ノ診察料藥價并ニ馬匹預ケ中及ヒ出發後ノ費用ハ其治療ノ日數ト旅行ノ里程ニ應テ取締ヨリ豫シメ之ヲ其地戸長ニ交付スルヲ以テ戸長ハ後日決算ヲ爲シ之ニ現證書ヲ添ヘ鎮臺ニ送呈シ其費用ニ關スル證書類ニハ總テ戸長之ニ檢印ス可シ又取締等途中ニ於テ已ムヲ得サル事故ヲ生シ軍馬宿泊指定表ノ通行スル能ハス爲メニ戸長ノ證印ヲ請フトキハ戸長ハ事實取組ノ上該表ノ裏面ニ其事由ヲ記シ之ニ檢印ス可シ

第十六款 作物害蟲豫防規則

▲明治十八年十二月內務省達第四拾三號

府 縣

田圃耕作物ノ害蟲ハ其發生ノ初ニ於テ各自之ヲ驅除スヘキハ勿論ニ候處往々之ヲ忽セニスルヨリ遂ニ蔓延ノ患ヲ來シ不測ノ災ヲ醸スモノ不勘ニ付田圃ノ大害ヲナス蟲類ニ限り左項ニ基ツキ豫防規則ヲ設ケ農商務省ヘ届出ツヘシ此旨相達候事

○第一類○行政法○作物害蟲豫防規則

- 第一項 田圃蟲害豫防規則ヲ設クヘキ害蟲ノ種類ハ地方ノ狀況ニ據リテ之ヲ定ムヘシ
- 第二項 害蟲田圃ニ發生セシトキハ其作人ヲシテ直チニ驅除ニ着手セシムヘシ
- 第三項 驅蟲地區ハ町村ノ區域ニ據リ豫メ之ヲ劃定シ害蟲蔓延ノ徵アリト認ムルトキハ其區域内人民ヲシテ驅除ニ從事セシムヘシ
- 第四項 前項ノ場合ニ於テハ其驅除ニ係ル一切ノ費用ハ町村費ヲ以テ支辨セシムヘシ
- 第五項 田圃蟲害豫防規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ之ヲ處分スヘシ

第十七款 農事巡回教師設置ノ件

▲明治十八年八月農商務省達第三拾三號 府 縣

農事ノ改良ヲ圖ランカ爲シ左ノ條項ニ依リ農事巡回教師ヲ設置候條此旨相達候事

第一條 農事巡回教師ハ普通農事及養蠶製絲製茶糖業害蟲牧畜ノ業務毎ニ之ヲ設ク

但最初ハ養蠶製絲製茶及ヒ普通農事トシ其他ハ漸次着手スルモノトス

- 第二條 農事巡回教師ハ甲乙二部ニ分チ甲部ハ全國ヲ巡回シ乙部ハ一府縣内ヲ巡回スルモノトス
- 第三條 甲部農事巡回教師ハ當省ヨリ派出シ農務局員ヲ以テ之ニ充ツヘシ
- 第四條 甲部農事巡回教師ノ巡回ハ六箇月以内トシ從來定ムル所ノ農區ニ據リ巡回セシムルモノトス
- 第五條 乙部農事巡回教師ハ地方官ヲシテ其管内實業者中老練ニシテ名望アリ兼テ學理ニ通スルモノヲ選ハシメ當省ヨリ之ヲ命スルモノトス
- 第六條 但選定ノ上ハ本人履歷書ヲ添ヘ當省ヘ申出ヘシ
乙部農事巡回教師ハ任期中取扱判任官ニ准シ無給トス
但任免ノ節旅費ヲ給セス
- 第七條 乙部農事巡回教師ハ巡回中手當金(旅費電信郵便筆墨料等ニ充ルモノトス)ヲ當省ヨリ支給スヘシ
但金額ハ毎年別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第一類 ○行政法 ○農事巡回教師設置ノ件

第八條 乙部農事巡廻教師ノ巡廻期節及其區劃ハ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

第九條 乙部農事巡廻教師ハ其復命報告書ヲ作り地方官ヲ經由シテ當省ヘ差出スヘシ

第十條 乙部農事巡廻教師ハ左ノ如ク心得ヘシ
乙部農事巡廻教師心得

第一項 農事巡廻教師ハ各其職務ニ就テ實業者ノ知識ヲ開キ拙キモノヲ巧ニシ表ヘタルヲ盛ンニセシカ爲メ專ラ誘導ノ力ヲ盡スヘキモノナレハハニ接スルニ溫柔懇切ナルヘシ決シテ倨傲ノ舉動アラサルヤウ注意スヘシ

第二項 巡廻中ハ其職務ニ就テ見聞スル事項ニ注意シ若シ有害ト認ムルモノアルトキハ細ニ其理由ヲ述ヘテ説諭ヲナスヘシ

第三項 巡廻中ハ其地方ノ勸業主務者即チ勸業課郡役所又ハ勸業委員ト協議シ實業者ヲ招キ集メテ談話シ又ハ實業者ノ質問ヲ受ケテ答辨ヲナスヘシ

但可成人民執業ノ時間ヲ妨ケサルヤウ注意スヘシ

第四項 巡廻先ノ地ニ農談會集談會若クハ諮問會等アルトキハ其席ニ

臨ミテ談話シ又ハ質問ニ答辨スヘシ

第五項 質問中答辨シ難キ事アルトキハ其理由ヲ詳カニ記載シテ農務局ニ出シ説明ヲ乞フヘシ

第六項 有益ノ發明又ハ衆人ノ模範タルヘキ事業ヲ起セシモノアルヲ見聞セシトキハ其旨ヲ報道スヘシ

第七項 巡廻中見聞セシ事ニ就キ意見アルトキハ書取ヲ以テ農商務卿又ハ地方長官ニ申出ルヲ得ヘシ

第八項 巡廻中ノ談話筆記其他見聞セシ事項ハ可成精密ニ記載シテ報告書トナシ復命スヘシ

○第十八款 セルメートル條約

▲明治十九年四月十六日勅令無號

朕明治八年佛蘭西國巴里府ニ於テ獨逸國外十六箇國ノ間ニ締結セルメートル條約ニ加入シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治八年(西曆千八百七十五年)佛西蘭國巴里府ニ於テ獨逸國外十六箇國ノ間ニ締結セルメートル條約譯文

日耳曼皇帝陛下、澳地利洪噶利皇帝陛下、白耳義皇帝陛下、伯西兒皇帝陛下、亞然的普共和國大統領閣下、丁抹皇帝陛下、西班牙皇帝陛下、亞米利加合衆國大統領閣下、佛蘭西共和國大統領閣下、伊太利皇帝陛下、白露共和國大統領閣下、葡萄牙亞爾珈揮皇帝陛下、露西亞皇帝陛下、瑞典那威皇帝陛下、瑞西聯邦大統領閣下、土耳其皇帝陛下及ヴェネズエラ共和國大統領閣下、ハメートル法ヲ萬國ニ施行シ且之ヲシテ完全ナラシメンコトヲ冀望シ之カ爲メ條約ヲ締結センコトニ決定シ各其全權委員ヲ任命スルコト左ノ如シ

日耳曼皇帝陛下、ハバリ府駐在同國特命全權大使、普魯西赤鷲勳章及マヴヒエール、サン、ユベール勳章ノグラン、クロアー、プランス、ド、ホヘンローフ、シルリンヒユルスト氏

澳地利洪噶利皇帝陛下、ハバリ府駐在同國特命全權大使、現侍從兼樞密顧問、金羊毛勳章ノシユヅハリエ并洪噶利サン、エチエンヌ勳章及レオポール勳章ノグラン、クロアー、コント、アッポニー氏

白耳義皇帝陛下、ハバリ府駐在同國特命全權公使、レオポール勳章ノグラン、チフヒシエ及レシヨンドノール勳章ノグラン、チフヒシエ、ハロン、ベイヤン氏

伯西兒皇帝陛下、ハバリ府駐在同國特命全權公使、宮中顧問、クリスト勳章

ノコンマンドール、及レシヨンドノール勳章ノグラン、チフヒシエ、貴族ヅ井コント、チタシユバ、マルコー、アントニヨ、ダローシヨ氏

亞然的普共和國大統領閣下、ハバリ府駐在同國特命全權公使、バルカルス氏、丁抹皇帝陛下、ハバリ駐在同國特命全權公使、ダヌプロク勳章ノグラン、クロアー、及同勳章ノクロアー、ドノール并レシヨンドノール、勳章ノグラソ、オフヒシエ、コント、ド、モルトツケ、ウヰットフネルド氏

西班牙皇帝陛下、ハバリ府駐在同國特命全權公使、金羊毛勳章ノシユヅハリエ及レシヨンドノール、勳章ノグラン、クロアー、一等貴族ヅ井コント、ド、ロカモラ、マルキード、モレンドン、マリヤノ、ロカド、トエール氏及西班牙國地理統計學士院長理學會院會員イザベール、ラ、カトリック勳章ノグラン、クロアー、將官イハネー氏

亞米利加合衆國大統領閣下、ハバリ府駐在同國特命全權公使、エリユー、ベシヤメン、ウワシユビユルヌ氏

佛蘭西共和國大統領閣下、ハ外務卿、國會議員、レシヨンドノール勳章ノコンマンドール、チユツツ、デカーズ氏、農商務卿、國會議員、ウヰコント、ド、モ一氏及前卿理學會院常置書記レシヨンドノール勳章ノグラン、クロアー、チユマー氏

○第一類○行政法○セルメートル條約

伊太利皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、サン・モーリーヌ・エー、ラザール勳章及伊太利王冠勳章ノシユヅハリエ、クロアール并レシヨンドノール勳章ノグラン、チフヒシエ、シユヅハリエ、コンスタンテン、ニクラ氏

白露共和國大統領閣下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、ペドロ・ガルウエーズ氏及前特命全權公使、フランシスコ・ドリヴェロ氏

葡萄牙亞爾珈揮皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、サン・シヤツク勳章ノグラン、クロアール、及葡萄牙ツール、エレペー勳章ノシユヅハリエ、貴族シヨセ、ダ、シルヴ・ハ、メンド、レアル氏

露西亞皇帝陛下ハ在巴里同國大使館顧問、現參事院議官露國サント、アンヌ第一等サン・スタニスラス第一等サン・ウラジミール第二等勳章ノシユヅハリエ及レシヨンドノール勳章ノコンマンドール、グレゴアール、チク、ーネツフ氏

瑞典那威皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、瑞典北極星及那威サノ、チラフ勳章ノグラン、クロアール并レシヨンドノール勳章ノグラン、チフヒシエ、ハロン、アアルス、ウアールド氏

瑞西聯邦大統領閣下ハ巴里府駐在同聯邦特命全權公使、ジャン・コンラ

ド、ケルヌ氏

土耳其皇帝陛下ハ參謀中佐チスマニエ第四等勳章及メシヂエー第五等勳章并レシヨンドノール勳章ノオフヒシエ、ヒユスニール、ベール氏
ヴエネズエラ共和國大統領閣下ハ學士エリゼテ、アコスタ氏
右全權委員ハ互ニ委任ノ書ヲ示シ其善良適當ナルヲ認メ以テ左ノ條々ヲ議定ス

第一條 締約諸國ハ共同ノ費用ヲ以テ度量衡萬國中央局ヲ設立維持シ巴里府ニ之ヲ常置シテ以テ學術上ノ事ヲ司トシムヘシ

第二條 佛國政府ハ本條約附録ノ規則ヲ以テ定メタル條規ニ隨ヒ專ラ右目的ニ供スヘキ家屋ノ買入若クハ建築ヲ容易ナラシムルニ必要ナル處置ヲナスヘシ

第三條 萬國中央局ハ總テ度量衡萬國委員會ノ指揮監督ヲ受ケテ事務ヲ取扱フヘシ但該委員會ハ締約各國政府ノ委員ヲ以テ組織スル度量衡總會議ノ支配ヲ受クヘキモノトス

第四條 度量衡總會議長ノ任ハ巴里理學會院現職院長ニ委嘱スルモノトス

第五條 中央局ノ組織并度量衡萬國委員會及度量衡總會ノ組成權限ハ本

條約附錄ノ規則ニ於テ之ヲ規定スヘシ

第六條

度量衡萬國中央局ハ左ノ事務ヲ擔任スヘシ

第一

新製メートル及キログラム原器ノ比較監査ニ關スル事

第二

萬國原器ノ保存

第三

定期ヲ以テ各國模製原器ヲ萬國原器及其擬製品ト比較シ且各國標準寒暖計ヲ相比較スル事

第四

新製原器ヲ以テ各國及ヒ學術上ニ於テ使用スル所ノ度量衡原器ニシテメートル法ニ基カサルモノニ比較スル事

第五

測地用ノ尺度ヲメートル原器ニ照準シテ之ヲ比較スル事

第六

政府學士協會美術家又ハ學士ノ囑托ニ應ジ諸原器及確正尺度ヲ比較監査スル事

第七條

中央局ハ局長一名補助二名及其他職員ノ必要ナル員數ヲ以テ組織ス

第八條

新製原器ノ比較ヲ終了シ之ヲ各國間ニ配分シタル後ハ中央局ノ職員ヲ至當ト認ムル割合ヲ以テ減少スヘシ

第九條

中央局職員ノ任命ハ萬國委員會ヨリ締約各國政府ニ通知スヘシ

第十條

メートル及キログラム萬國原器及其擬製品ハ中央局内ニ保存

第十一條

シ之ニ接近スルヲ得ルハ獨リ萬國委員會ノ權内ニ在ルモノトス

第十二條

度量衡萬國中央局ノ構造創設費并其維持ニ要スル毎年ノ經費及萬國委員會ノ經費等ハ凡テ締約各國ノ支出金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但其支出金額ハ締約各國現時ノ人口ニ基キ調製シタル割合表ニ準據シ之ヲ定ムヘキモノトス

第十三條

締約各國ハ其支出金額ハ每歲ノ初メ佛國外務省ヲ經由シテ巴里貯金所ヘ拂込ムヘシ右金額ハ入用ノ都度中央局長ノ證券ヲ以テ該貯金所ヨリ之ヲ請取ルヘキモノトス

第十四條

本條約ニ加盟スルノ權ハ各邦國ニ許與スルニ付之ヲ行ハントスル政府ハ割賦ノ支出金ヲ拂入ルヘシ其金額ハ第九條ニ記載ノ基礎ニ依リ萬國委員會ニ於テ之ヲ定ムヘシ且右支出金ハ本局學術上ニ關スル器具材料ノ改良ニ充ツヘキモノトス

第十五條

締約各國ノ經驗ニ依リ本條約ニ修正ヲ加フルコトヲ有益ト認メタルトキハ協議一致ノ上之ヲ爲スノ權アルモノトス

第十六條

十二箇年ノ期限ヲ經過シタル後締約各國ハ本條約ヲ解脫スルコトヲ得ヘシ

第十七條

自己ノ權利ニ依リ本條約ノ聯合ヲ脫セント欲スル政府ハ該期限ノ盡了

○第一類○行政法○セルメートル條約

スル一年前ニ其旨ヲ告知スヘシ然ルトキハ萬國原器及中央局ニ付テ總
テノ共同所有權ヲ放棄シタルモノトス

第十四條 本條約ハ各國特有ノ憲法ニ從ヒ之ヲ批准シ巴里府ニ於テ六箇
月内若クハ成ルヘク速ニ其批准書ヲ交換スヘシ而シテ本條約ハ千八百
七十六年一月一日ヨリ之ヲ實行スヘキモノトス
右確證ノ爲メ各國ノ全權委員各茲ニ記名スルモノナリ
千八百七十五年五月二十日巴里府ニ於テ作ル

- ホヘンローフ
- アッポニー
- ベイヤン
- ウヰコント、ヂタジユバ
- エム、バルカルス
- エル、モルトツケ、ウヰツフユルド
- マルキ、ド、モレン
- カルロ、イハネー
- エ、ペー、ウヰシユビユルス
- デカーズ

- セー、ド、モー
- ヂユマー
- ニクラ
- ペー、ガルウエーズ
- フランシスコ、ドリヴェロ
- ジョセ、ダ、シルヴハ、マンド、レアル
- チク、ネツフ
- アデルスウアールド
- ケルス
- ヒユスコ
- エ、アコスタ

○第十九款 穀量榷用ヒ法

▲明治十九年三月農商務省令第二號

穀量一斗以上ヲ授受スルノ際一斗榷ヲ用ヒサルトキハ其授受者ニ於テ之
ヲ拒ムコトヲ得

○第一類○行政法○穀量榷用ヒ法○魚兒介苗苔藻捕採ノ件 七百五十二

○第二十款 魚兒介苗苔藻捕採ノ件

▲明治十九年六月農商務省訓令第九號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

魚兒介苗其他未成長ノ苔藻等濫リニ之ヲ捕採セサル様各地ノ狀況ニ從ヒ
適宜之カ制限ヲ立ツヘシ

但明治十八年當省第二十三號達ニ據リ經伺ノ上施行スヘキ儀ト心得
ヘシ

○第二十一款 大林區署管轄區域

▲明治十九年五月閣令第拾貳號

大小林區署名稱位置及管轄區域ヲ定ムルコト左ノ如シ
大林區署名稱位置及管轄區域

京都大林區署	位置	山城國京都	管轄區域	京都府
兵庫大林區署	位置	攝津國神戸	管轄區域	兵庫縣
靜岡大林區署	位置	駿河國靜岡	管轄區域	靜岡縣
三重大林區署	位置	伊勢國安濃津	管轄區域	三重縣
岐阜大林區署	位置	美濃國岐阜	管轄區域	岐阜縣
岡山大林區署	位置	備前國岡山	管轄區域	岡山縣
廣島大林區署	位置	安藝國廣島	管轄區域	廣島縣

山口大林區署	位置	周防國山口	管轄區域	山口縣
福岡大林區署	位置	筑前國福岡	管轄區域	福岡縣
大分大林區署	位置	豐後國大分	管轄區域	大分縣
宮崎大林區署	位置	日向國宮崎	管轄區域	宮崎縣
鹿兒島大林區署	位置	薩摩國鹿兒島	管轄區域	鹿兒島縣
和歌山大林區署	位置	紀伊國和歌山	管轄區域	和歌山縣
高知大林區署	位置	土佐國高知	管轄區域	高知縣
愛媛大林區署	位置	伊豫國松山	管轄區域	愛媛縣
木曾大林區署	位置	信濃國上松	管轄區域	長野縣
石川大林區署	位置	加賀國金澤	管轄區域	石川縣 富山縣 福井縣
茨城大林區署	位置	常陸國水戸	管轄區域	茨城縣
宮城大林區署	位置	陸前國仙臺	管轄區域	宮城縣
秋田大林區署	位置	羽後國秋田	管轄區域	秋田縣
青森大林區署	位置	陸奥國青森	管轄區域	青森縣

小林區署ノ名稱位置及區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○第一類○行政法○大林區署管轄區域

○第二十二款 小林區署位置區域

▲明治十九年五月農商務省令第八號
小林區署ノ名稱位置及區域左ノ通相定ム
小林區署位置名稱及區域表

國	郡	村	名稱	區域	郡	村	名稱
播磨	西書	寫書	寫	飾西郡書寫村外二十二箇村地内、飾東郡白國村外三十四箇村地内、揖東郡太田村外八箇村地内			
同	明石	大明石	明石	明石郡大明石村外八十二箇村地内、攝津八郡郡東須磨村外一箇村地内、加古郡六分一村地内			
同	加東	平木	御岳	加東郡平木村外二十四箇村地内、多加郡上比延村外二箇村地内、攝津有馬郡大川瀬村外二箇村地内、丹波多紀郡本庄村外七箇村地内			
同	美濃	東這田	三木	美濃郡東這田村外四十二箇村地内、加東郡山田村外十三箇村地内、加古郡草谷村外四箇村地内、明石郡本具村外十箇村地内、印南郡西井ノ口村外二箇村地内			
攝津	有馬	尼寺	富士	有馬郡尼寺村外四十三箇村地内、川邊郡上槻瀬村外六箇村地内			

但馬	養父	石厚	妙見	養父郡石厚村地内
丹波	多紀	八上	夕高	多紀郡八上々村外百二十三箇村地内
遠江	長上	平口	三方	美玉郡堀谷村外四箇村地内、豐田郡根堅村外十七箇村地内、引佐郡都田村外一箇村地内、長上郡平口村外四十箇村地内
同	敷知	和合	和地	長上郡富屋敷村外十四箇村地内、敷知郡和合村外六十四箇村地内、引佐郡中川村外一箇村地内
同	城東	西大淵	橫須賀	城東郡西大淵村外六箇村地内、山名郡愛野村外三十七箇村地内、磐田郡見附宿地内
伊豆	田方	湯ヶ島	狩野	田方郡湯箇島村外二箇村地内
同	那賀	門野	仁科	那賀郡門野村外五箇村地内
伊勢	度會	宇治	宇治	度會郡宇治館町外五箇町一驛四十九箇村地内
伊賀	阿拜	上野	上野	阿拜郡上野村外六十九箇村地内、山田郡早野村外二十五箇村地内、伊賀郡桂村外五十八箇村地内、名張郡矢川村外三十六箇村地内
美濃	武儀	神淵	淵七宗	武儀郡神淵村外八箇村地内

○第一類○行政法○小林區署位置區域

安藝山縣坪野惠下	同	備中阿賀菅生菅生	同	同	備前津高下加茂加茂	同	同	同
山縣郡坪野村外八箇村地内、佐伯郡和田村外三箇村地内	哲多油野野	阿賀郡菅生村外十一箇村地内	上道郡大多羅村地内、邑久郡長船村外二十五箇村地内	赤阪郡富龍ノ口村地内	津高郡下加茂村外二十八箇村地内	土岐郡大富村地内、可兒郡下惠土村外三十一箇村地内	厚見郡岐阜村地内、山縣郡溝口村外十二箇村地内、方縣郡岩崎村外二十三箇村地内、各務郡新加納村外十八箇村地内、武儀郡上有知村外二十七箇村地内、羽栗郡德田村外十四箇村地内	池田郡上野村外三十一箇村地内、大野郡東横山村外三十八箇村地内、本巢郡小柿村外十八箇村地内、安八郡安治村外十三箇村地内、席田郡芝原村外五箇村地内

七百五十八

前夜須野鳥古處	長門豐浦楠野豐浦	同	同	周防都濃笠戸島笠戸	同	備後芦田藤尾藤尾	同	同	同
嘉麻郡千手村外六箇村地内	豐浦郡楠野村外六箇村地内、厚狹郡植生村外六箇村地内、美禰郡伊佐村外一箇村地内	玖珂郡橫山村十四箇村地内	同	同	同	同	同	同	同
夜須郡野鳥村外十二箇村地内、上座郡佐田村外四箇村地内、下座郡矢竹村外一箇村地内	同	同	同	同	同	同	同	同	同

○第一類○行政法○小林區署位地區域

七百五十九

同	同	同	豐	同	筑	同	同	同	同	同	同
同	同	同	後	御	後	鞍	同	同	同	同	同
南海部	同	北海部	大野	井	山	手	同	柏	上	同	同
青	福	久	重	御	門	頓	宇	屋	座	同	同
山	良	原	岡	井	尾	野	美	久	鼓	同	同
山	桓	久	重	町	野	福	宇	原	上	同	同
山	山	原	岡	高	浦	智	美	犬	座	同	同
山	山	原	岡	良	池	智	美	鳴	座	同	同
南海部郡青山村外三箇村地内	北海部郡福良村外四十五箇村壹箇町地内	北海部郡久原村外三十二箇村地内	大野郡重岡村外四箇村地内	御井郡御井町外三箇村地内、上妻郡長延村外一箇村地内、山本郡飯田村外六箇村地内	山門郡尾野村外十六箇村地内、上妻郡白木村外六津村地内、下妻郡津島村外二箇村地内、三池郡龜谷村外六箇村地内	鞍手郡永満寺村外七箇村地内、遠賀郡畑村外十箇村地内、豊前郡田代村外五箇村地内、田川郡上野村地内	内	柏屋郡宇美村外二十箇村地内、御笠郡山家村外十八箇村地内、席田郡金隈村外八箇村地内	柏屋郡久原村外二十四箇村地内、鞍手郡犬鳴村外一箇村地内	上座郡鼓村外十四箇村地内	穗波郡大分村外五十七箇村地内

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
日向	北	北	北	東	同	同	同	同	同	同	同
西	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
細	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西
野	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
小	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
林	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
西	北	北	北	東	同	同	同	同	同	同	同
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
細	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
野	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
村	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
外	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
一	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
箇	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
村	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
地	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
内	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	北	北	北	東	同	同	同	同	同	同	同
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
東	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
諸	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽
郡	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽	嶽